

オリックス株式会社

2026年3月期第1四半期 決算説明会

業務執行役員 コーポレート部門 経営計画、IR、サステナビリティ管掌

山本 和樹

2025年8月7日

(1)当期純利益/ROE

- 当期純利益は1,073億円(前年同期比+206億、進捗率28.2%)、ROEは10.4% (年換算)
- Q2にGreenkoやオリックス債権回収の株式譲渡、AM GreenやHilco Globalへの出資を公表済み
これらの売却/投資案件も踏まえた通期業績予想3,800億円については精査中

(2)税前利益/キャピタルリサイクリング

- 税前利益は1,555億円(前年同期比+353億円)
- 金融、事業、投資のいずれも前年同期比で増益、順調な進捗
- キャピタルゲインは451億円、主に不動産の売却益が貢献

(3)株主還元

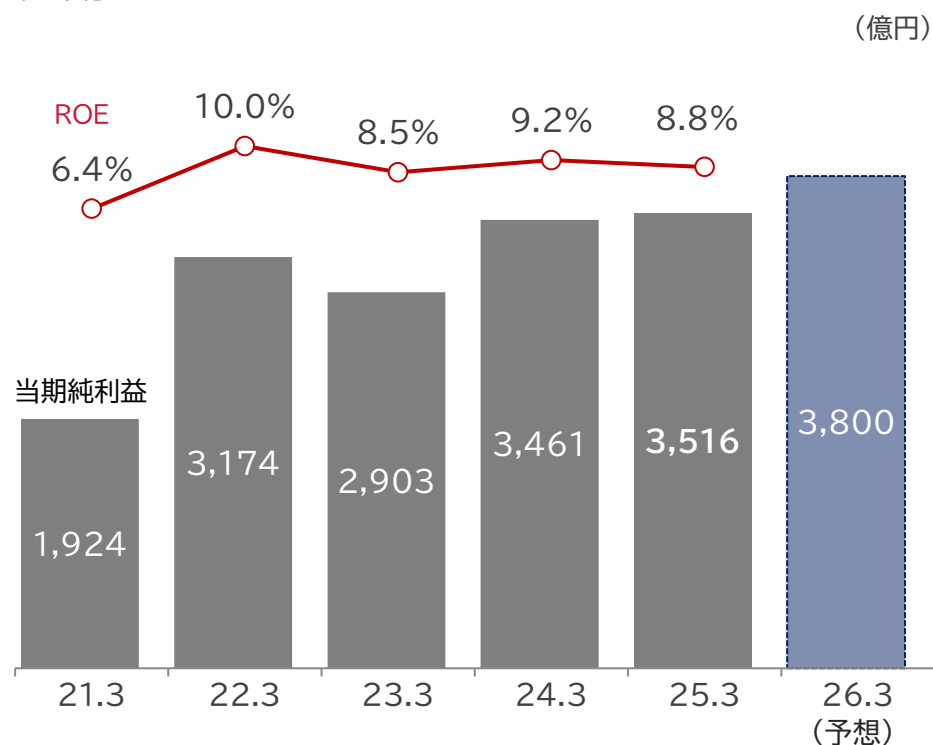
- 自己株式の取得枠総額1,000億円に対し、409億円を実行済み(7月末)
- 中間配当については、上期実績に対する配当性向39%を予定

当期純利益 | ROE

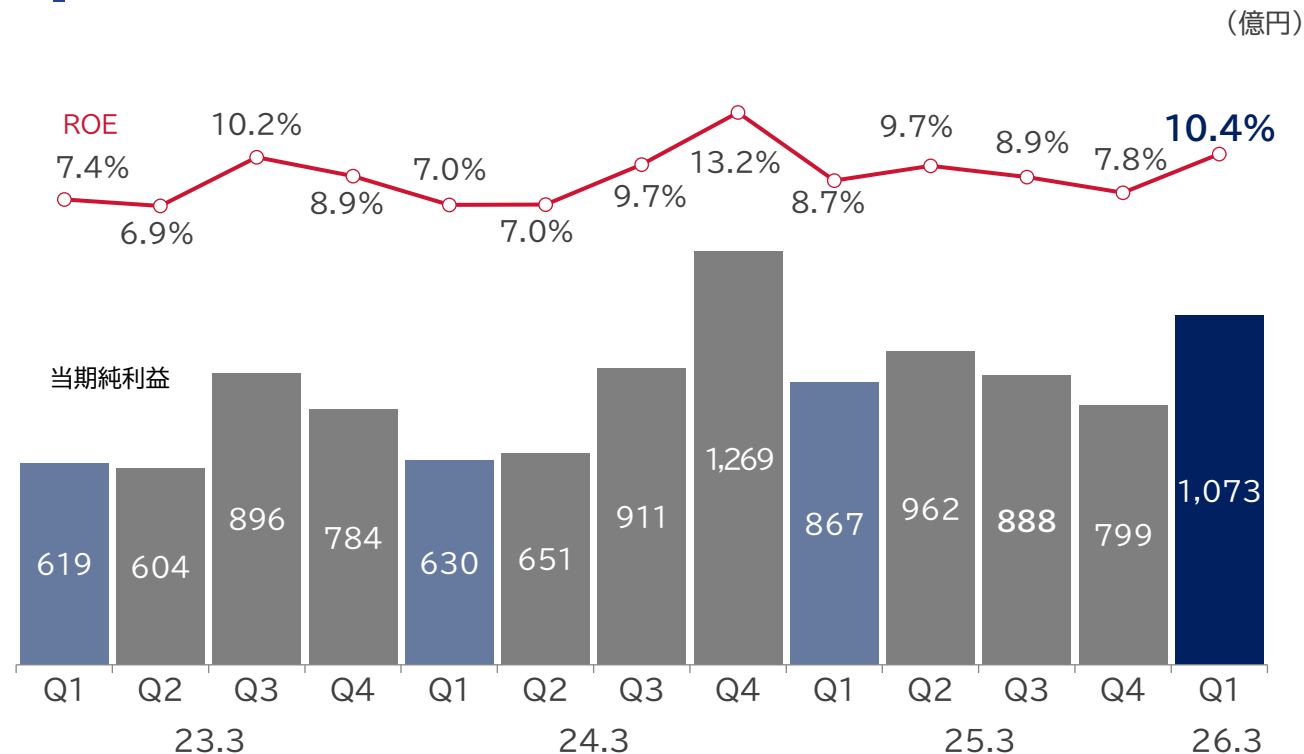
- ✓ 当期純利益*1は1,073億円、Q1として過去最高水準、ROEは10.4%(年換算)
- ✓ 前年同期比では、206億円(+24%)の増益

*1「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指す。

通期



四半期



税前利益 | 3分類

- ✓ 税前利益は1,555億円、前年同期比+353億円、進捗率29%
- ✓ 金融、事業、投資のいずれも前年同期比で増益

Q1実績

		セグメント利益*	前年 同期比	年度予想・ 進捗率	主な増減要因
金融	25.3	467	+22 (+5%)	1,800 (27%)	- 保険の運用収益が好調 - アジア・豪州における一部地域での金融収益の伸びも寄与
	26.3	490			
事業		532	+26 (+5%)	2,300 (24%)	- 環境エネルギーは国内電力とElawanが堅調、ジークライトの売却益も寄与 - レンテック(ICT機器レンタル)やコンセッション(国際線)も増益
		558			
投資		373	+228 (+61%)	1,900 (32%)	- 不動産売却益のほか、Ormat持分の評価益などもあり、大幅増益 - 国内PE投資先は業績堅調で前年同期に計上した売却益の反動を除くと増益
		601			

Q1実績	25.3	26.3	前年同期比	ROE
セグメント利益計	1,373	1,649	+276(+20%)	
税引前利益	1,202	1,555	+353(+29%)	
当期純利益	867	1,073	+206(+24%)	10.4%

*3分類それぞれ、機構改革に伴う軽微なアップデートを過去に遡って反映済み。以降のページも同様

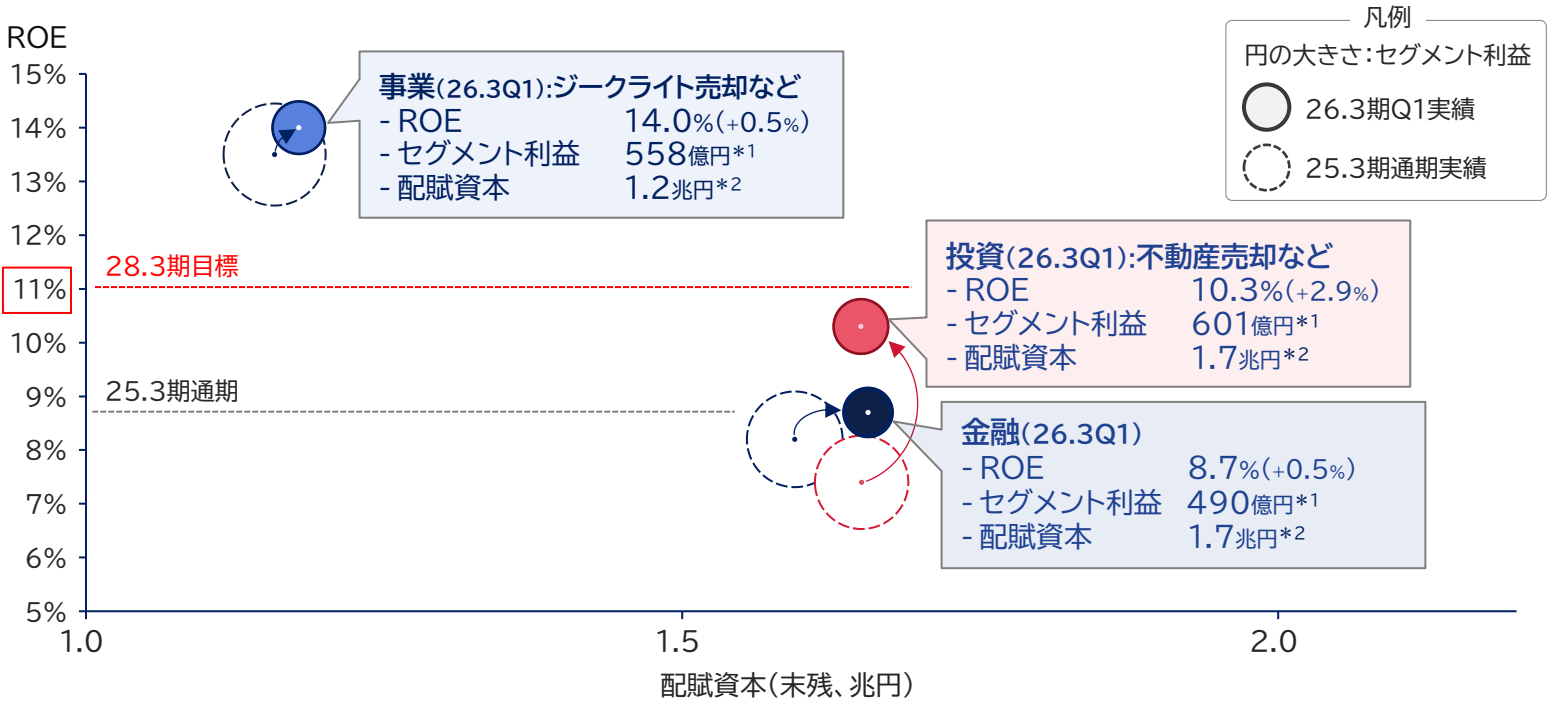
ROEと株主資本 | 3分類

- ✓ Q1のROEは10.4%、前年度比で1.6%改善。また、3分類のいずれも向上
- ✓ キャピタルリサイクリングの推進による利益成長、自己株式の取得により株主資本を最適化

3分類、25.3期→26.3期Q1

26.3期Q1	
連結ROE	:10.4%
株主資本	:4.1兆円
↳ 自己株式の取得枠総額1,000億円に対し、進捗率は41%(25年7月末時点)	

25.3期通期	
連結ROE	:8.8%
株主資本	:4.1兆円

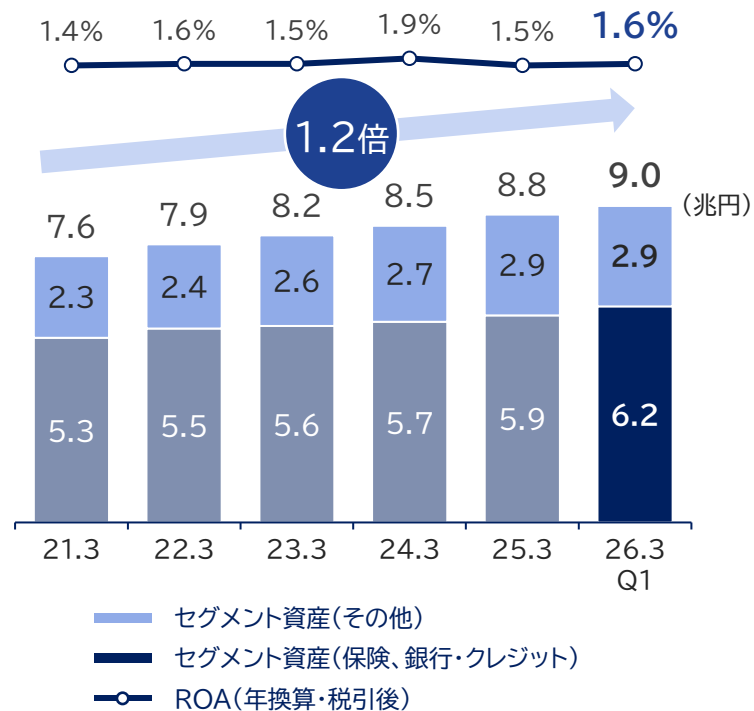


*1 セグメント利益は税引前の金額(一方、ROEは税引後利益で計算)。
*2 3分類合計の配賦資本は4.5兆円。管理会計上の数字ゆえ、連結BSの株主資本4.1兆円とは一致しない。

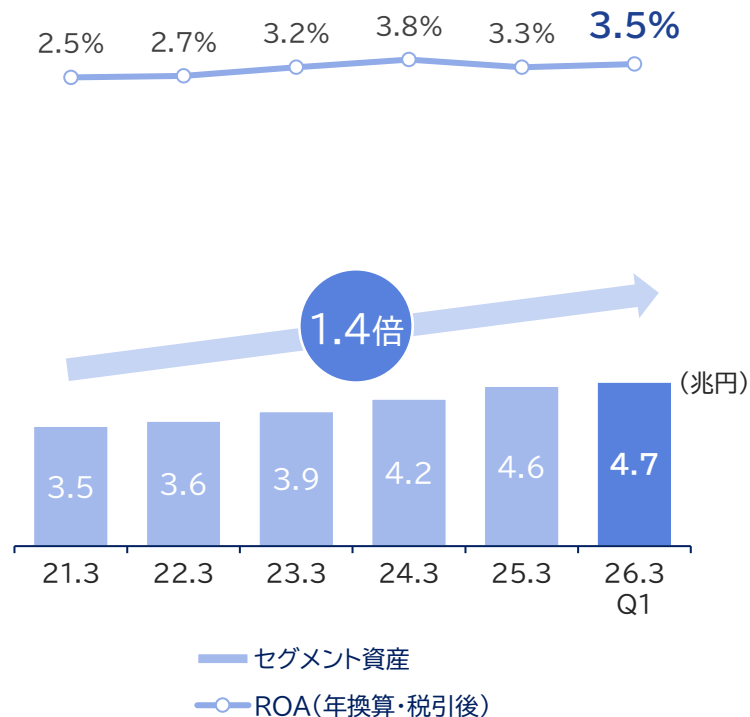
ROAと資産規模 | 3分類

- ✓ 総資産ROAは2.5%、前年度末比で0.4%改善(26.3期Q1)
- ✓ 3分類のいずれもROAが向上、キャピタルゲインを計上した投資が特に向上

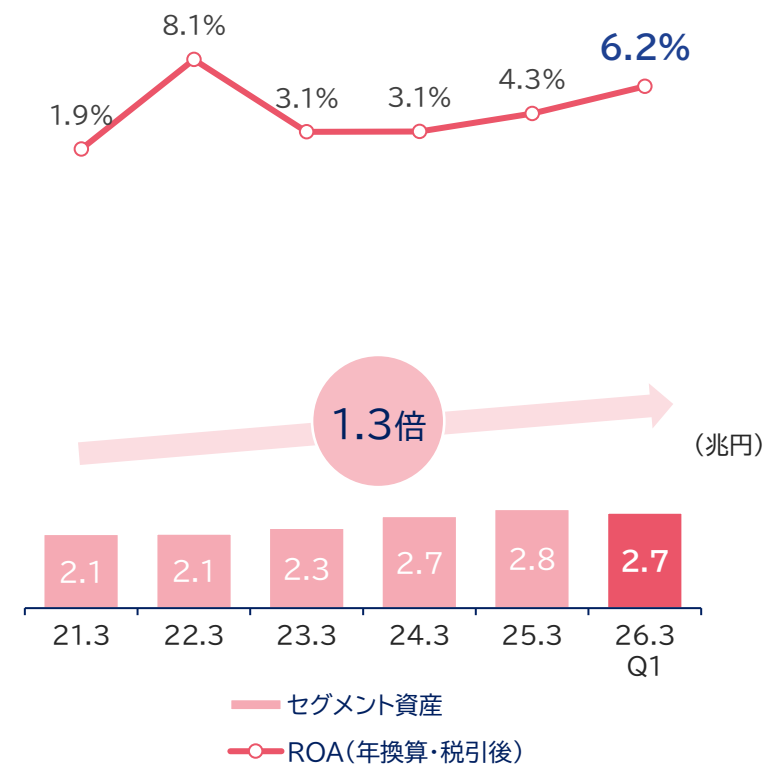
金融



事業



投資



※ セグメント資産はいずれも平残

ポートフォリオの3分類

3分類とセグメントのマトリクス

		3分類		
		金融 - ストック型、利ザヤが収益源 -	事業 - 現場オペレーションまで -	投資 - リサイクルリングの主な対象 -
セグメント	法人営業・メンテナンスリース	法人営業(ファイナンス部門)	自動車、レントック	法人営業(事業承継など)
	不動産		不動産運営、AM、大京、MICE-IR	不動産開発・投資
	事業投資・コンセッション		空港運営	国内PE
	環境エネルギー		メガソーラー、電力小売、Elawan	Greenko, Ormat
	保険	生命保険		
	銀行・クレジット	銀行		クレジット
	輸送機器	船舶ファイナンス	航空機事業、三徳船舶、ソメック	Avolon、船舶投資
	ORIX USA	ファイナンス部門	AMビジネス (Lument, NXT, BFIM)	米国PE
	ORIX Europe		ROBECOグループ	
	アジア・豪州	ファイナンス部門	AMビジネス	アジア(投資)

キャピタルリサイクリング

- ✓ Q1のキャピタルゲインは451億円。不動産、環境エネルギーのExitや、評価益などを計上
- ✓ Q2以降は1,000億円規模の大型売却・投資案件を公表済み。引き続き、案件を厳選して実行する方針

	25.3期 通期実績	26.3期 Q1実績	26.3期 通期予想
売却	Capital Gain <u>1,407億円</u>	<u>451億円</u> 主な売却・Exit - 不動産 : ホテル ユニバーサルポートヴィータ - 環境エネルギー : ジークライト	<u>1,200～1,800億円(精査中)</u> 公表済み - Greenkoの株式譲渡 - 譲渡価額: USD1,282Mln/売却益: 934億円*1 - オリックス債権回収の株式譲渡 - 譲渡先: リサ・パートナーズ
	Cash In <u>6,450億円</u>	<u>1,300億円</u>	<u>5,000～7,000億円</u>
新規投資	Cash Out <u>6,000億円</u>	<u>1,500億円</u> 主な投資実行 - 輸送機器 : 航空機の取得 - 事業投資 : ルルアークへの出資 - 不動産 : MICE-IRや物流施設への投資	<u>5,000～7,000億円</u> 公表済み*2 - AM Greenの転換社債引受USD 731Mln - Hilco Trading社の子会社化 USD 776Mln

*1 継続保有する 2.5%部分の評価益を含む。

*2 パナソニック プロジェクター&ディスプレイ社の子会社化については合意解約済み。

Greenkoの株式譲渡 | AM Greenへの新規投資

- ✓ 当社保有Greenko株式の一部を、AM Green Power B.V.(次世代エネルギー)に譲渡
- ✓ AM Green (Luxembourg) S.à.r.lが発行する転換社債に投資



- 当社保有持分20%のうち17.5%を、AM Green Power B.V. に譲渡

譲渡価額*
USD 1,282Mln

売却益*
約934億円 (継続保有する2.5%部分の評価益を含む)

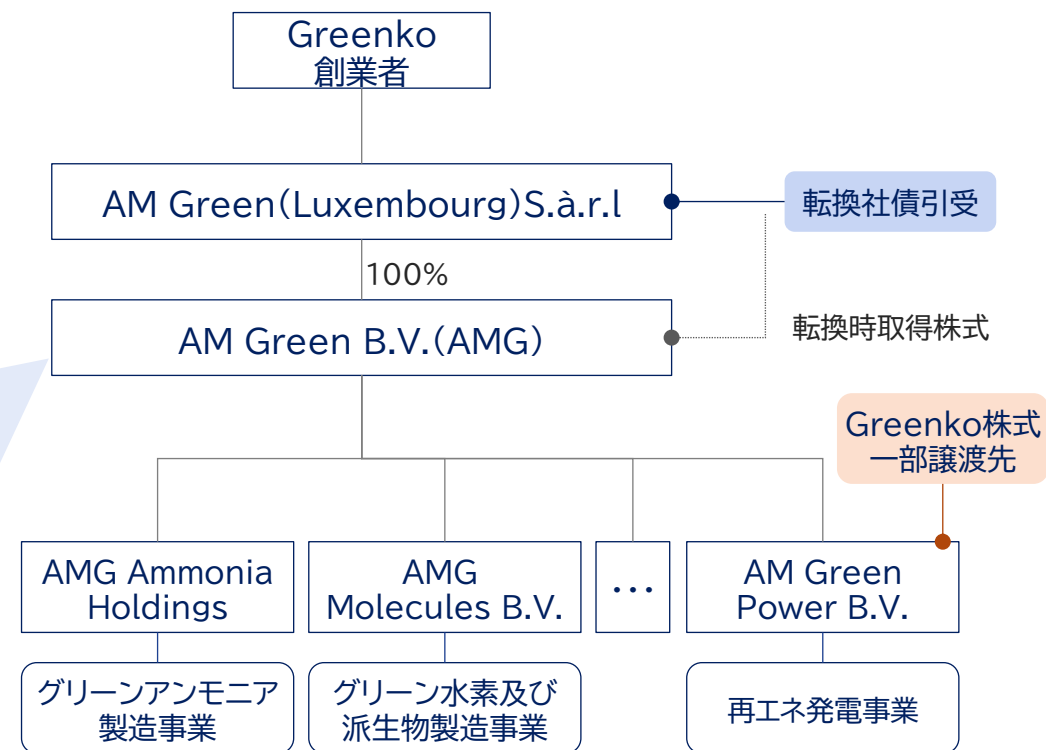


- AMG(右記ご参考)はグリーン水素/アンモニア事業をコアとする、次世代エネルギープラットフォーム会社
- 2030年までに、年間500万トンのグリーンアンモニアを生産する計画
- AM Green(Luxembourg) S.à.r.l 発行の転換社債を引受

投資額*
USD 731Mln

* Greenko譲渡価額・売却益、およびAM Greenへの投資額はいずれも2025年6月30日公表時(こちら)

AM Green コーポレートストラクチャー



Hilco Trading, LLC の子会社化

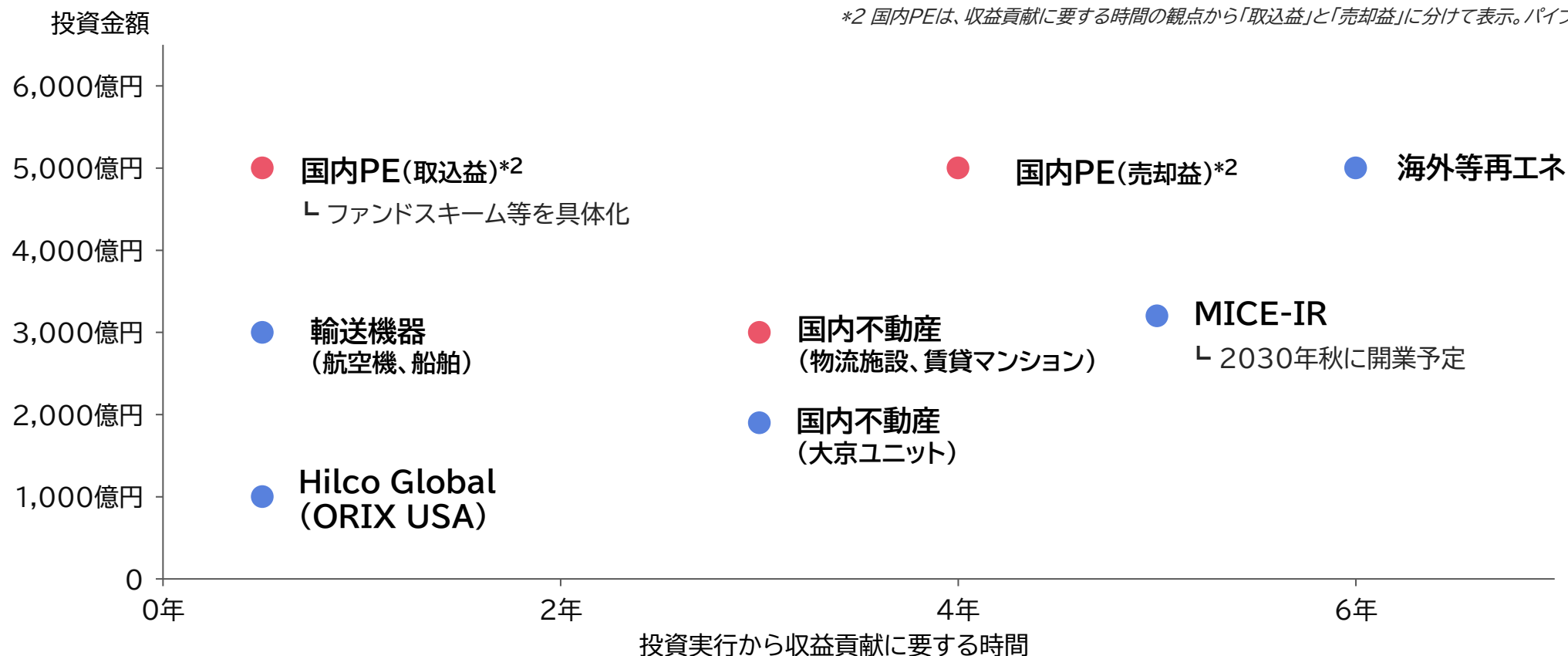
- ✓ Hilco Globalの71.4%持分をUSD776Mlnで取得予定(2025年9月末までに株式取得を完了する見込み)
- ✓ Private Assetのオリジネーション能力を拡大、アセットマネジメント強化への貢献を企図



Hilco Global	
資産鑑定評価において数十年以上の実績を有する、米国内シェアトップ企業	
主な事業内容 (1987年設立)	資産鑑定 評価 資産担保型 融資(ABL) 在庫売買・ 資産処分
*ABL: Asset-based Lending	
事業規模	•総資産 :USD 612 Mln(2024年12月末) •従業員数 :800人以上 •対象業種 :36業種以上
主要株主 (ORIX取得前)	•Hecktman氏(創業者) : 64.7% •Hecktman氏以外の経営陣 : 33.7% •その他 : 1.6%
投資意義	資産価値評価およびABL組成のプラットフォームの獲得および活用によるAMビジネスの拡大

パイプライン | 投資金額と収益貢献までの時間

- ✓ パイプラインは合計2兆円*1
- ✓ 「事業」「投資」を中心に、投資実行後すぐ収益貢献する案件と時間を要するが収益性の高い案件を並行して推進



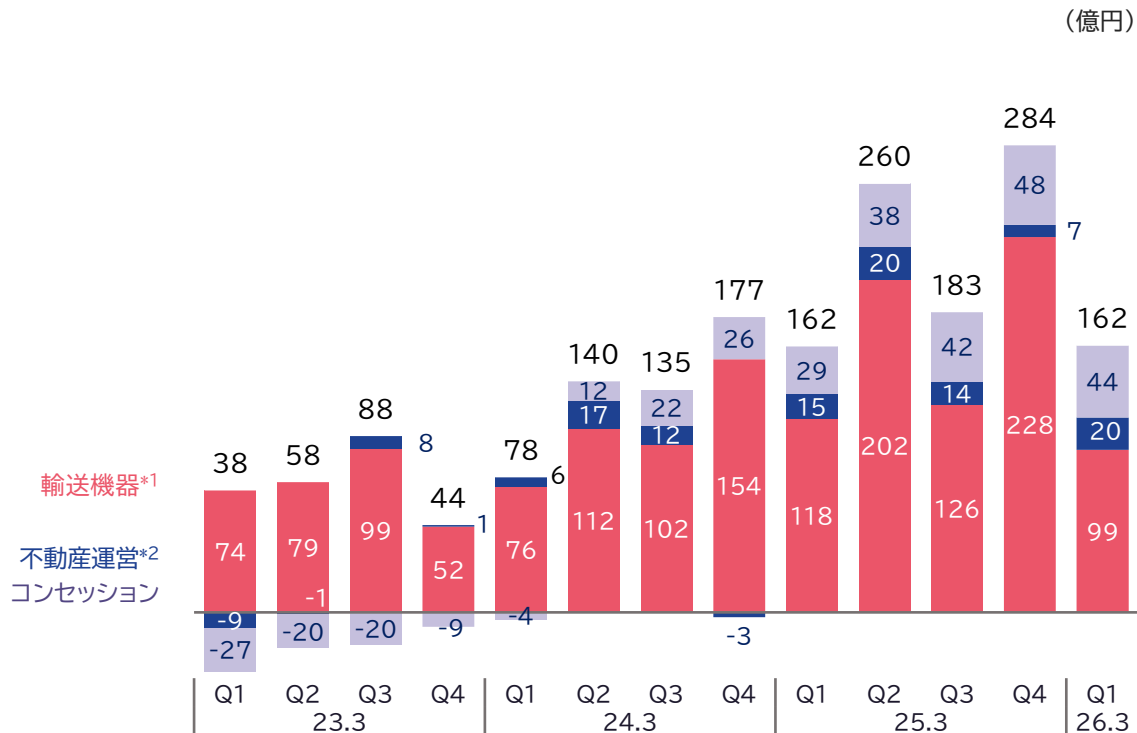
*1 2兆円は、以下グラフで表示のない案件を含む。

*2 国内PEは、収益貢献に要する時間の観点から「取込益」と「売却益」に分けて表示。パイプラインは計5,000億円。

インバウンド | ツーリズム

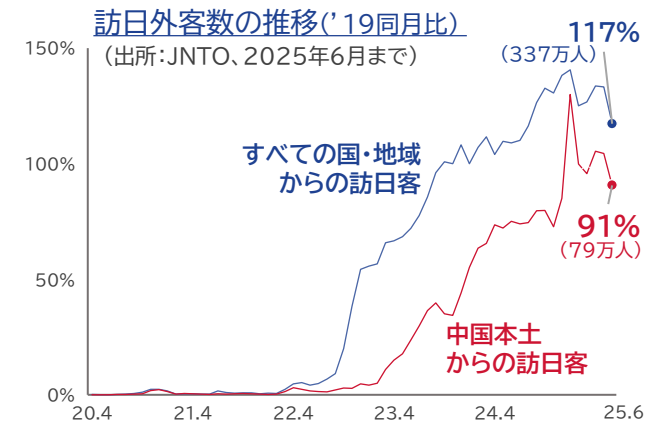
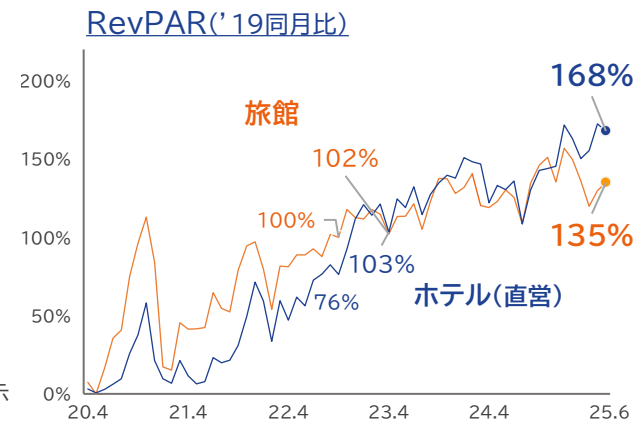
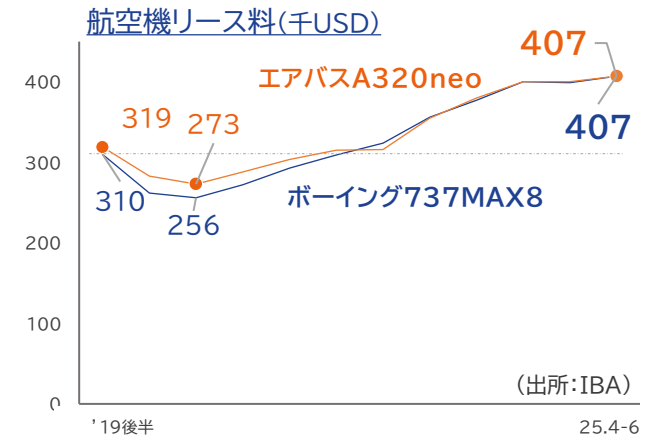
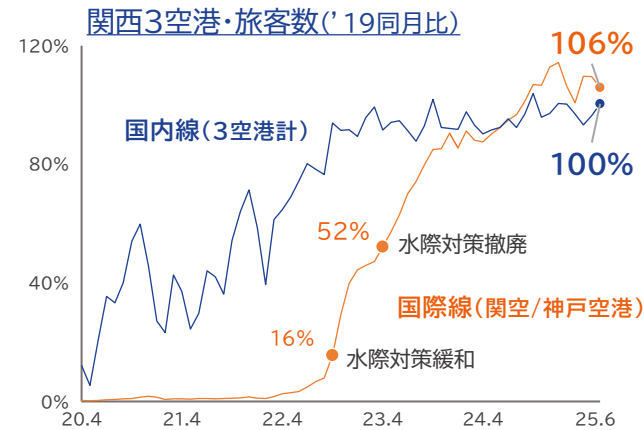
- ✓ コンセッションは、大阪・関西万博や神戸空港の国際チャーター便就航で、増益基調(いずれも4月開始ゆえ連結計上はQ2～)
- ✓ 不動産運営は、関西を中心にインバウンド需要を捉えRevPARを向上させ、大幅増益

3事業・セグメント利益(輸送機器、不動産運営、コンセッション)



*1 船舶ユニットの市況影響を含む

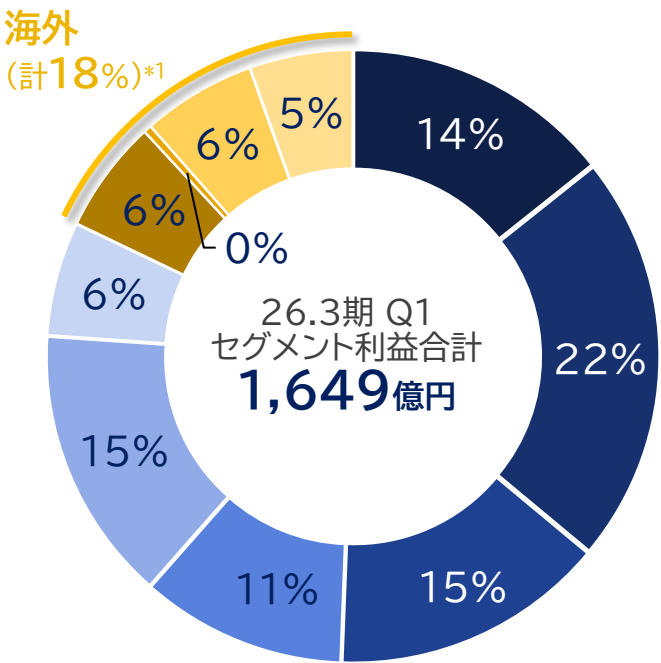
*2 不動産運営のセグメント利益は25.3期Q4決算発表より、社内で管理する同事業のセグメント利益を表示(25.3期Q1よりの支払利息の各セグメントへの配賦方法の一部変更は、24.3期まで適用済み)



セグメント利益 | 10セグメント

- ✓ セグメント利益は1,649億円、前年同期比+20%
- ✓ 不動産や環境エネルギーが売却を実現したほか、PE投資先の利益貢献もあり、大幅増益

セグメント別利益構成



*1 環境エネルギー(海外)を含まない

*2 セグメント利益合計1,649億円と税引前利益1,555億円との差額94億円は、管理部門販管費等

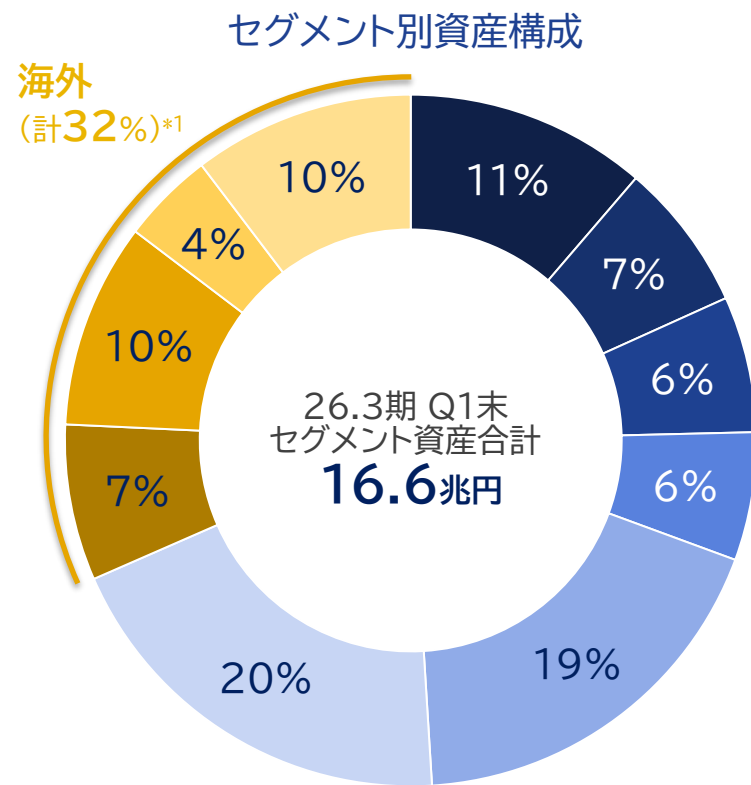
*3 為替 USD/JPY: Q1実績 145.19
EUR/JPY: Q1実績 164.37

(億円)

		25.3期				26.3期	前Q比	前年	ハイライト
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1*3		同期比	
1	法人営業・メンテナンスリース	198	258	206	241	236	▲5	+38	法人営業が手数料収益を伸ばしYoY増益。自動車はQ1として過去最高益を達成
2	不動産	140	364	93	109	359	+250	+219	大型売却の実現に加え、ホテル・旅館の増益もあり、大幅増益
3	事業投資・コンセッション	320	150	192	327	240	▲87	▲80	投資先の取込利益を拡大し、前期Q1のExitを除くと増益。空港コンセは季節要因でQoQ減益ながら、YoYでは大幅増益
4	環境エネルギー	▲5	28	108	▲181	179	+360	+184	ジークライトの売却益を計上したほか、Elawanの売電収入増で、大幅増益。紀の川蓄電所の稼働開始も寄与
5	保険	219	189	209	127	241	+114	+21	運用収益を伸ばし、増益。25.3期は、会社法基準でも黒字転換
6	銀行・クレジット	64	67	90	72	99	+27	+35	金融収益を拡大したものの、調達コスト増が先行。一過性要因もあり増益
7	輸送機器	118	202	126	228	99	▲129	▲19	旅客需要を背景に航空機事業が堅調ながら、船舶における海運市況の影響で減益
8	ORIX USA	118	48	112	121	6	▲114	▲112	前期Q1に計上した引当金戻入の反動や、PE投資先の減損により減益
9	ORIX Europe	112	96	173	62	99	+37	▲12	パフォーマンスフィーの減少でYOY減益ながら、AUM拡大によりマネジメントフィーは増加傾向
10	アジア・豪州	89	102	88	65	90	+25	+1	中華圏の取込益が減少したものの、オーストラリア等で金融収益を伸ばし、増益
合計		1,373	1,505	1,397	1,172	1,649*2	+477	+276	

セグメント資産 | 10セグメント

- ✓ セグメント資産は16.6兆円(前期末比で1,018億円の増加、うち、為替要因は▲824億円)
- ✓ 銀行が新規実行を伸ばし、保険は運用資産を拡大。また、事業投資・コンセッションが持分法投資勘定を増加



*1 環境エネルギー(海外)を含まない。
*2 セグメント資産ROAは、ユニット毎の税引後利益を用いて算出
*3セグメント資産合計16. 6兆円と総資産17.0兆円との差額0.4兆円は、オリックス(株)が保有する現預金等

(億円)					
		26.3期 Q1 *4	前期末比	ROA*2	ハイライト
1	法人営業・メンテナンスリース	18,700	▲146	3.5%	レンテックがICT機器で資産増ながら、法人営業は子会社の株式譲渡の影響で減少
2	不動産	11,519	▲64	8.6%	主にMICE-IRで増加。大京は、分譲マンションの販売が進み、減少
3	事業投資・コンセッション	10,545	+316	6.9%	ルルアークの株式取得により増加したほか、東芝・空港コンセの利益取り込みで持分法投資勘定も増加
4	環境エネルギー	9,926	▲236	4.9%	ジークライトの売却に加え、為替の影響で減少
5	保険	30,477	+385	2.3%	運用資産を増加
6	銀行・クレジット	32,165	+719	0.9%	投資用不動産ローンおよびマーチャントバンク事業の新規実行を伸ばし増加
7	輸送機器	12,084	▲235	3.0%	航空機が保有機体数を増加したが、船舶は貸付金等を減少
8	ORIX USA	15,882	▲57	0.1%	既存投資先の価値向上を企図したPE投資を実行し、現地通貨ベースでは増加
9	ORIX Europe	7,161	+468	4.3%	主に為替影響により増加(AUMは4,017億ユーロと、過去最高を更新)
10	アジア・豪州	17,126	▲130	1.6%	オーストラリア等で営業資産を増やすも、中華圏において抑制的な投融資スタンスを継続し減少
合計		165,585*3	+1,018	2.6%	

*4 為替
USD/JPY: 前期末149.52、Q1実績 144.81
EUR/JPY: 前期末162.08、Q1実績 169.66

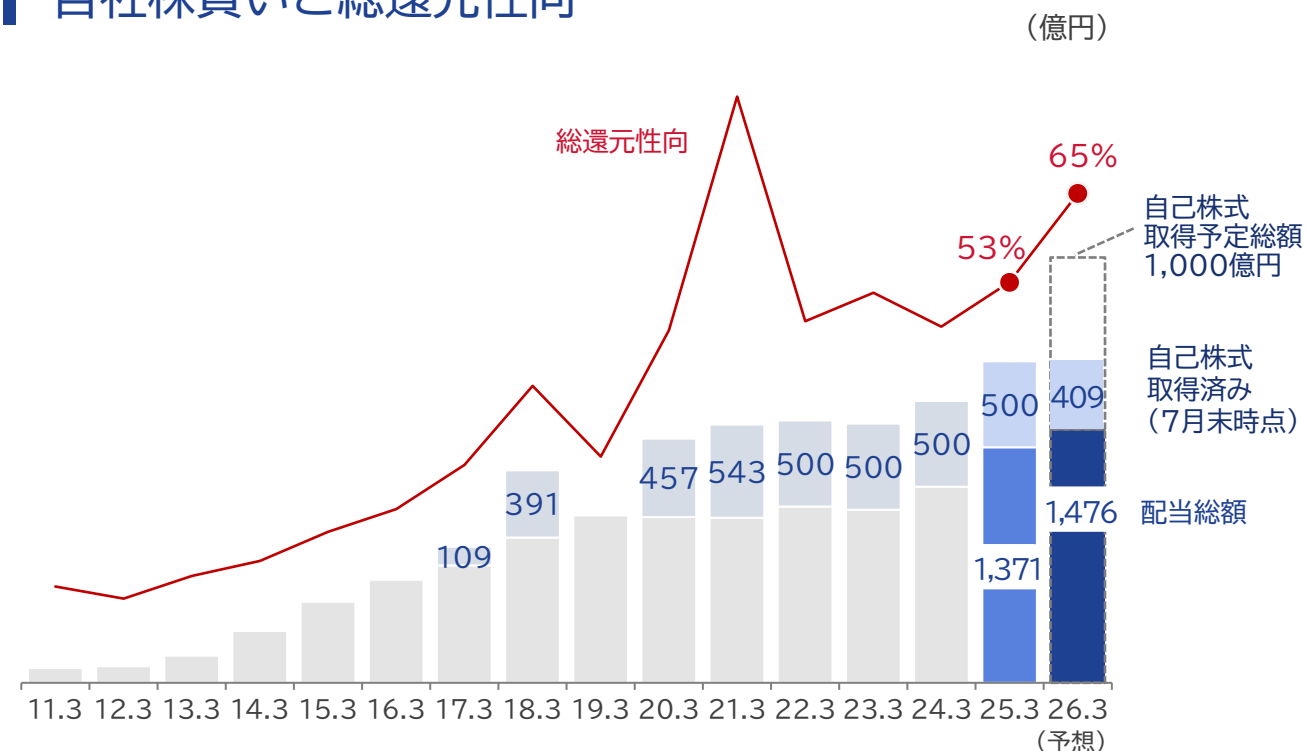
株主還元

- ✓ 自己株式の取得枠総額1,000億円に対し、409億円を実行済み(2025年7月末時点。進捗率41%)
- ✓ 26.3期の中間配当は、上期実績に対する配当性向39%とする方針

1株当たり配当と配当性向



自社株買いと総還元性向

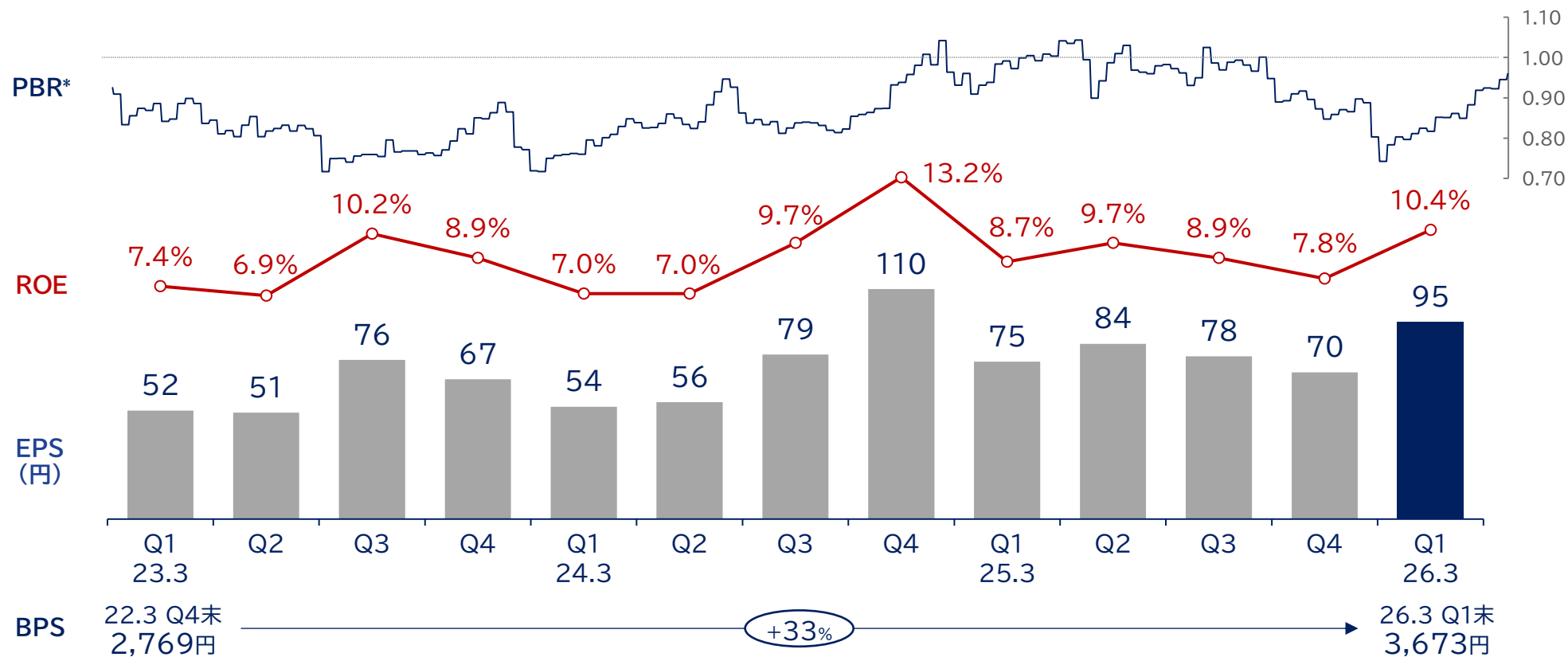


※ 26.3期通期の「1株当たり配当」、「配当性向」、「配当総額」および「総還元性向」は、当期純利益3,800億円の場合。配当金は、「配当性向39%、もしくは前期配当(120.01円)のいずれか高い方」。

ROE/EPS成長と企業価値向上

- ✓ 3か年計画の発表後、CEO・COOによる株主/投資家との直接対話を国内外で積極的に実施
- ✓ ROE/EPSの成長は現3か年計画の重要テーマ。資本コストを意識した経営を推進

■ PBR、ROE、EPS、BPSの推移



* Bloombergより取得(週次)

セグメント情報

法人営業・メンテナンスリース

セグメント利益: 236億円

前年同期比 +38億円(+19%)

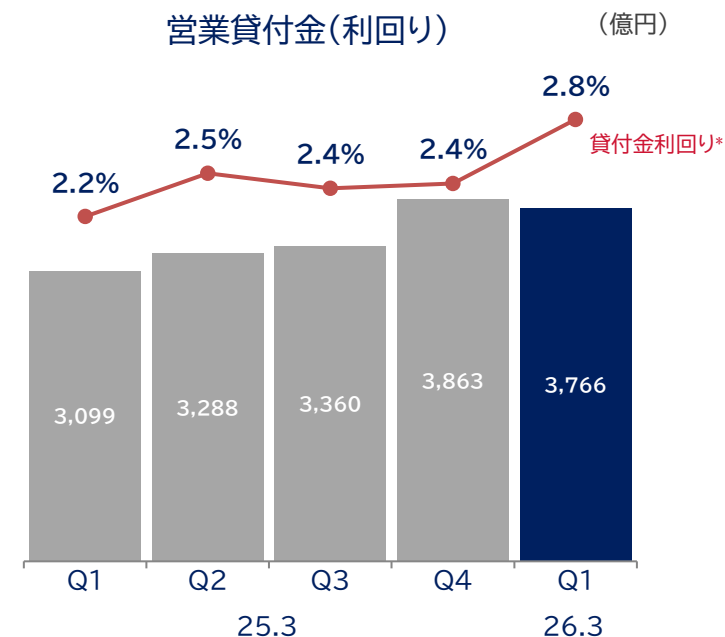
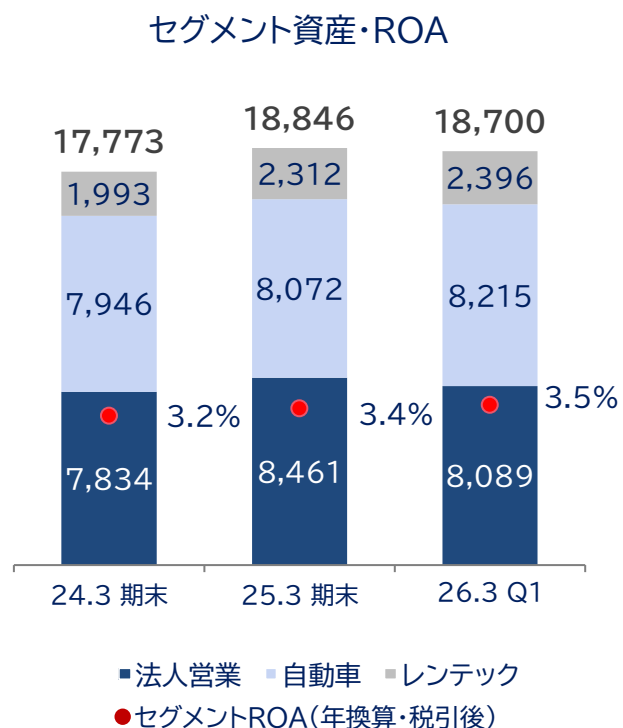
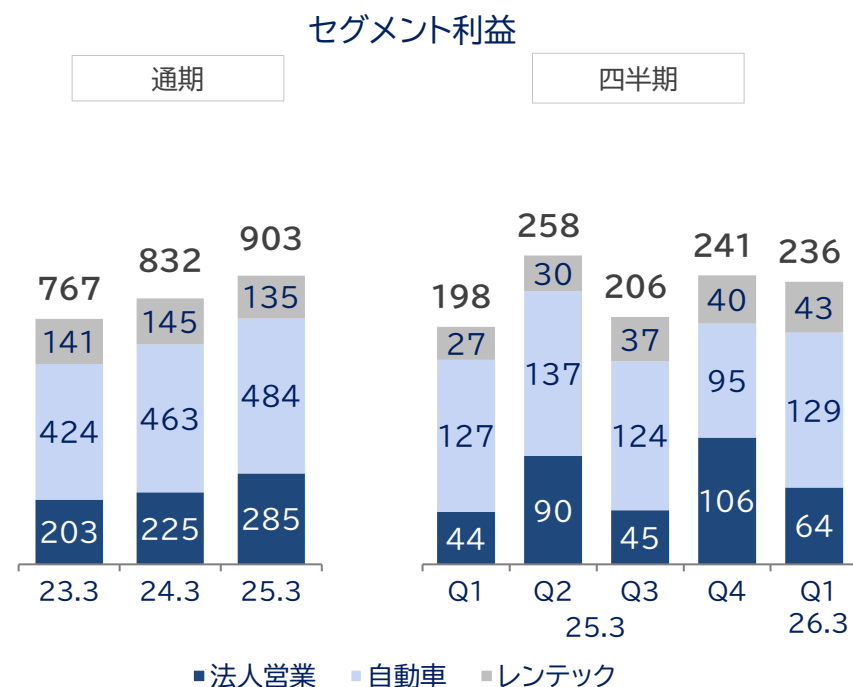
- ✓ 法人営業は、手数料収益を伸ばし、増益
- ✓ 自動車は、中古車市場が引き続き好調で、Q1として過去最高益を達成
- ✓ レンテックは、Windows入替え需要を捉え、増益

セグメント資産: 18,700億円

前期末比 ▲146億円(▲1%)

- ✓ 法人営業は、主にオリックス債権回収の株式譲渡*1の影響で減少
- ✓ 自動車は、売却と並行して新規実行を進めつつ、微増
- ✓ レンテックは、Win11の入替需要に合わせICT機器を積み上げ、増加

*1 2025年7月に株式譲渡完了済み



法人営業・メンテナンスリース事業

- ✓ 法人営業は、強固な顧客基盤と地域での高いプレゼンスを背景に、グループの中核的プラットフォーム
- ✓ 自動車は世界トップクラスの車両管理台数、レントックは機器レンタルのリーディングカンパニー

法人営業

- ・ 全国**59**拠点*1、約**1,500**名*2、取引先**40万**社
- ・ 経営者の一番近くの相談相手



*1 本社、事務所、支店の合計(2024年7月1日時点)

*2 ミドル部門を含む(2024年9月末時点)

自動車

- ・ **世界トップクラス**のリース等車両管理台数(**143万台**)*3
- ・ レンタカーは、インバウンド需要も取り込み好調
- ・ 中古車は、自社入札会場における多様な出口戦略で差別化



レントック

- ・ 機器レンタルの**リーディングカンパニー**
- ・ 保有レンタル機器約**4万**種/約**370万台***3
- ・ ICT機器・計測器等のレンタル・サービス



*3 2025年3月末時点

不動産

セグメント利益：359億円

前年同期比+219億円(+157%)

- ✓ 投資・運営は、ホテル ユニバーサルポートヴィータやオフィスビル等を売却
- ✓ また、ホテルの新規開業による客室数の増加やインバウンド需要によるRevPARの更なる上昇もあり、大幅増益
- ✓ 大京は、前年同期に賃貸マンションの売却益を計上した反動で減益

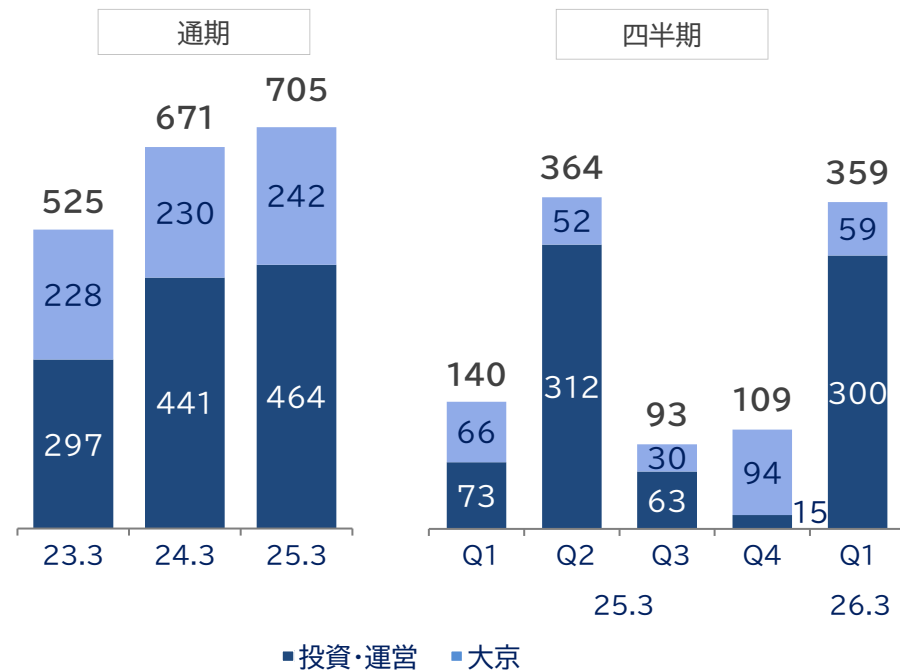
セグメント資産：11,519億円

前期末比▲64億円(▲1%)

- ✓ MICE-IRなど大型案件を控えるほか、投資・売却サイクルの継続で、資産額をコントロール
- ✓ 大京は、マンション販売が進み、資産減少

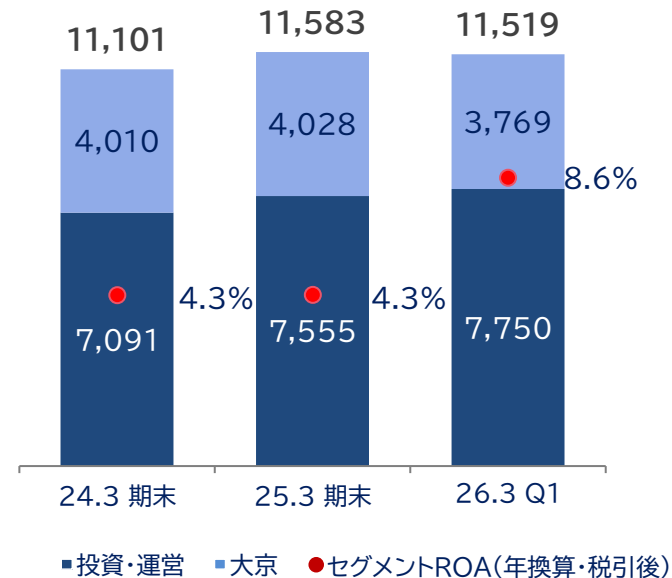
セグメント利益

(億円)

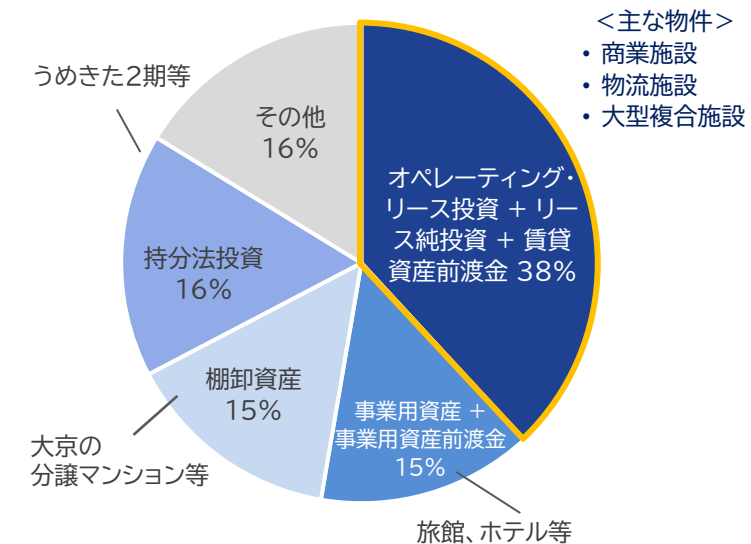


セグメント資産・ROA

(億円)



セグメント資産(26.3期Q1)

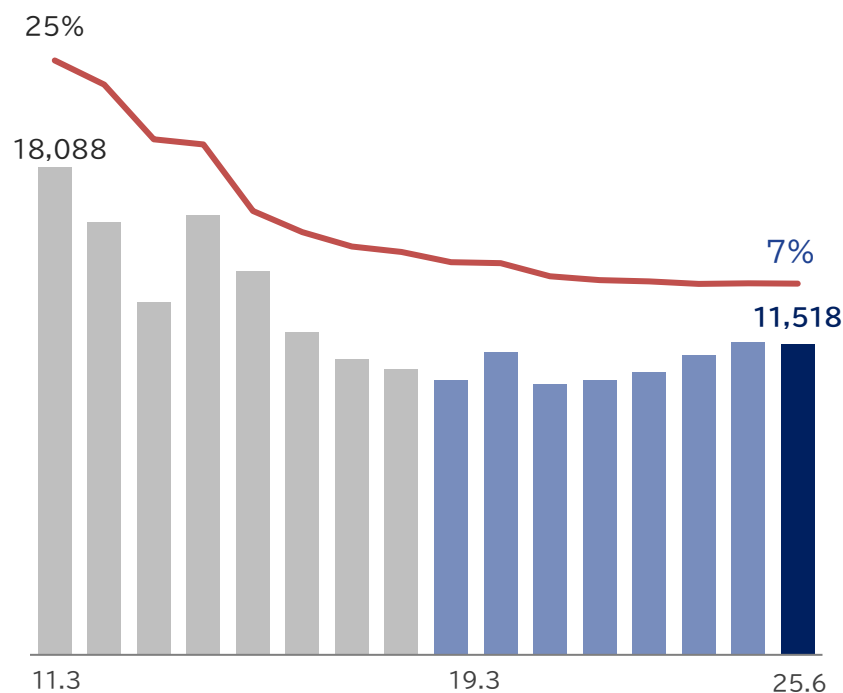


キャピタルリサイクリングの主な対象

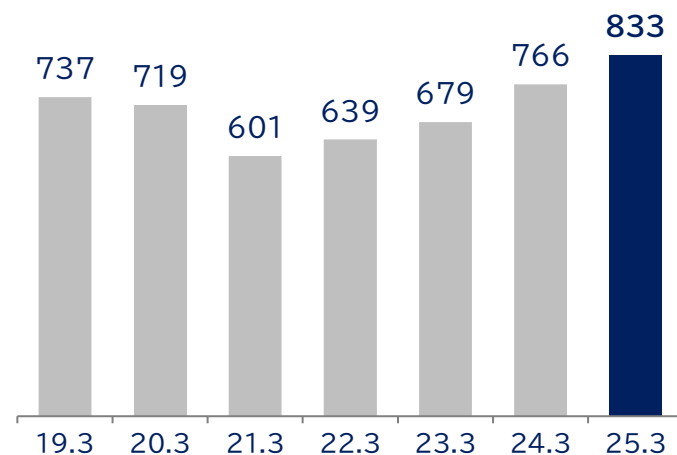
不動産事業

- ✓ 不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメントを展開
- ✓ AUMは1.8兆円に増加。ORIA* 初となるエクイティコミットメント型ファンドである「ORIA Japan Real Estate Value Add Fund I」を立ち上げるなど、ストック収入の拡大による収益安定化を企図

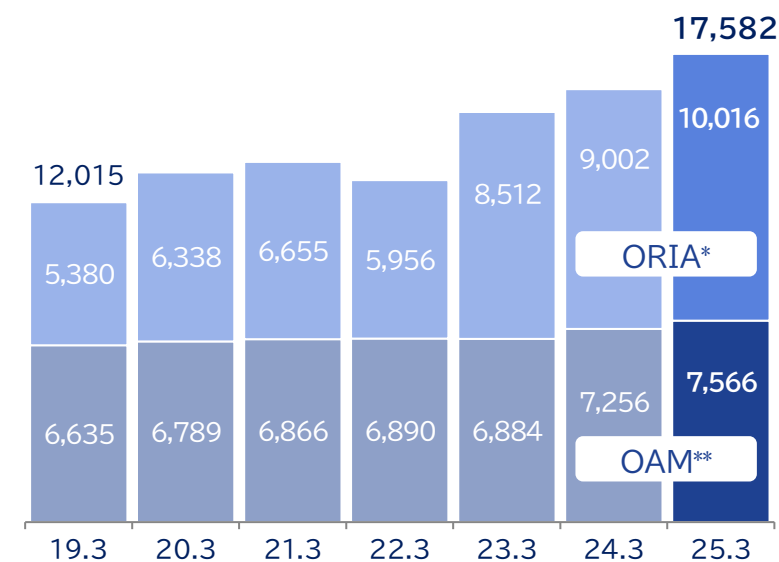
セグメント資産額と10セグ合計に対する比率の推移*1



賃貸不動産の含み益*2



AUMの推移 (億円)



*1 25.3期Q1よりセグメント資産の対象に現預金や社用資産等を含める方法へ変更(過去に遡って適用済)。ただし、11.3期から13.3期は遡及適用の対象外

*2 不動産以外のセグメントの賃貸不動産も含む。運営事業の資産は含まない

* オリックス不動産投資顧問(株)(私募ファンド)

** オリックス・アセットマネジメント(株)(J-REIT)

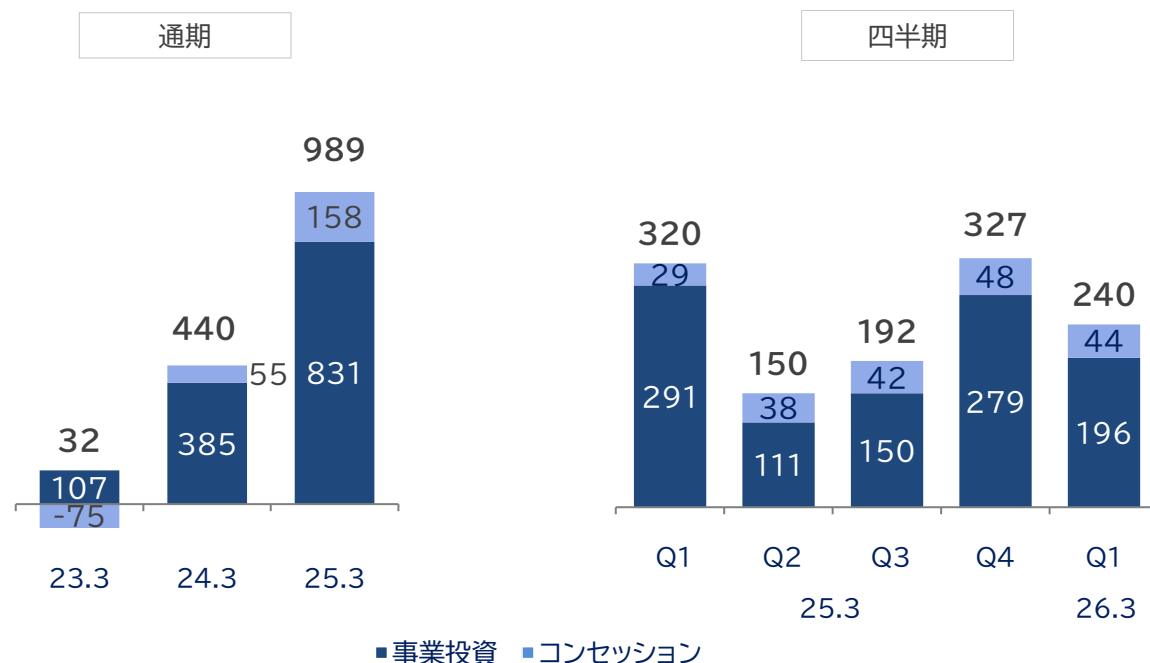
事業投資・コンセッション

セグメント利益：240億円

前年同期比▲80億円(▲25%)

- ✓ 事業投資は、DHCや東芝など投資先の業績が引き続き堅調で、前期Q1にささえあホールディングスをExitした反動を除くと増益
- ✓ 空港コンセッションは、季節要因で前Q比減益も、国際線旅客数を伸ばし、前年同期比では大幅増益

セグメント利益



* コンセッションのうち関西エアポートは3か月遅れで利益取込(1-3月実績を当期Q1に取込)

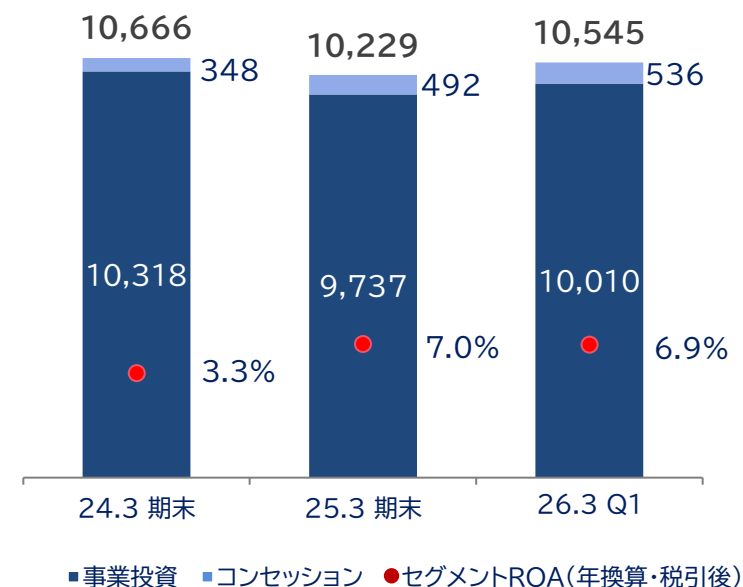
セグメント資産: 10,545億円

前期末比+316億円(+3%)

- ✓ カプセルトイ専門店の運営会社であるルルアークの株式取得により増加
- ✓ 東芝や空港コンセッションの取込益増加により、持分法投資残高も増加

セグメント資産・ROA

(億円)



事業投資・コンセッション事業

✓ 事業投資の投資先は18件*1（2025年6月末時点）。投資規模の拡大と共に、売却益が着実に増加

投資実績

幅広いネットワークおよび豊富な経験を生かし、優れた投資実績を誇る

投資対象	投資期間
中小型企業に注力 (EV:数百億円) 「カーブアウト」「非公開化」案件も推進中	1件あたり 3年～5年以上
実行案件数 (2012年以降)	投資実績
32件	IRR 約25% MOIC 約3.5倍 2012年以降の投資案件のExit (13件)の平均値*2

*2 2022年3月末に資産譲渡した小林化工は除く

投資先企業

経営管理・支援
オリックス社員による
ハンズオン管理・支援

買収・提携戦略
同業・隣接業種の
買収・提携による
業容拡大

営業支援
オリックスの
ネットワークを活用した
顧客開拓、販路拡大

プロフェッショナル
人材
エキスパートによる支援

IT情報サービス	投資時期	事業内容
コイケ	2017年	電子材料製造業
APRESIA	2020年	ネットワーク機器の開発・製造
エイチ・シー・ネットワークス	2020年	情報ネットワークシステムの設計・構築
インフォマティクス	2020年	地理情報システムの開発
ラインズ	2024年	教育用ソフトウェア開発・販売
物流・レンタル、酪農		
コーンズ・エージー	2018年	酪農・農業関連機械のトータルエンジニアサービス
杉孝	2020年	足場・仮設機材のレンタル事業
ヘルスケア		
イノメディックス	2015年	医療機器の販売
APEXホールディングス	2025年	医療機器の販売
DHC	2023年	健康食品/化粧品の研究開発・製造・販売

*1 2025年4月にルルアーク(カプセルトイ専門店の運営会社)への新規投資を実行。

環境エネルギー

セグメント利益：179億円

前年同期比+184億円(黒字転換)

- ✓ 国内は、ジークライトの売却や、紀の川蓄電所の稼働開始に加え、電力事業において販売量/単価を伸ばし、大幅増益
- ✓ 海外も、Elawanの売電収入の増加に加え、Ormat株式の評価益で大幅増益

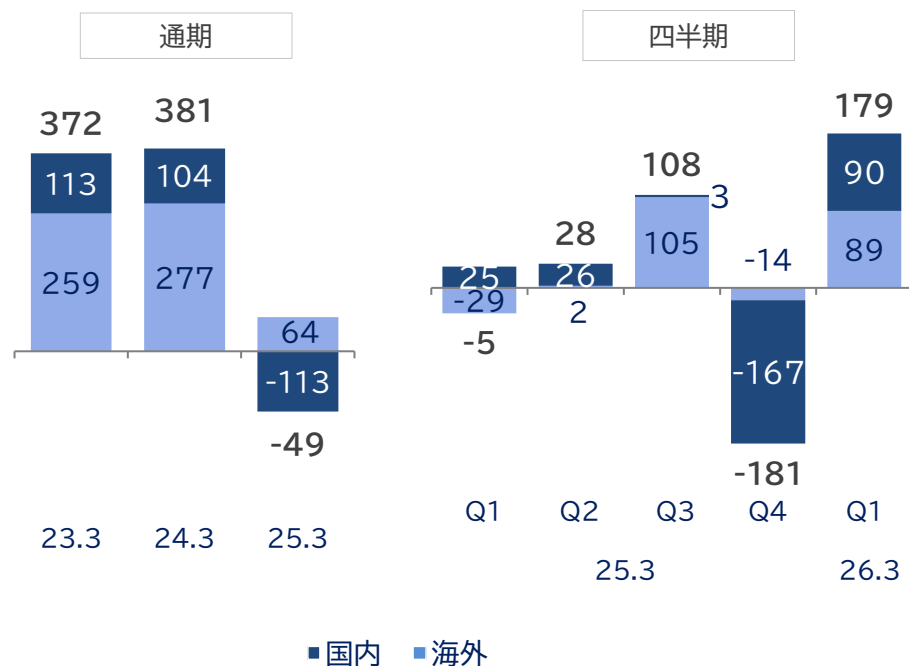
セグメント資産：9,926億円

前期末比 ▲236億円(うち為替▲172億円)

- ✓ ジークライトの売却に加え、為替の影響で減少

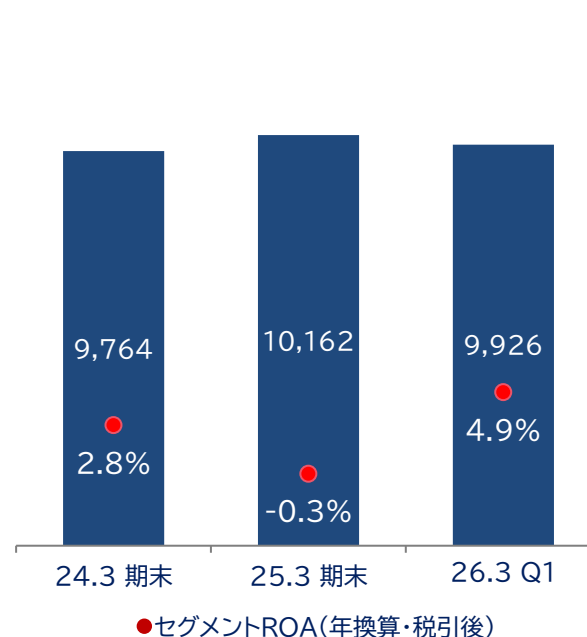
セグメント利益

(億円)

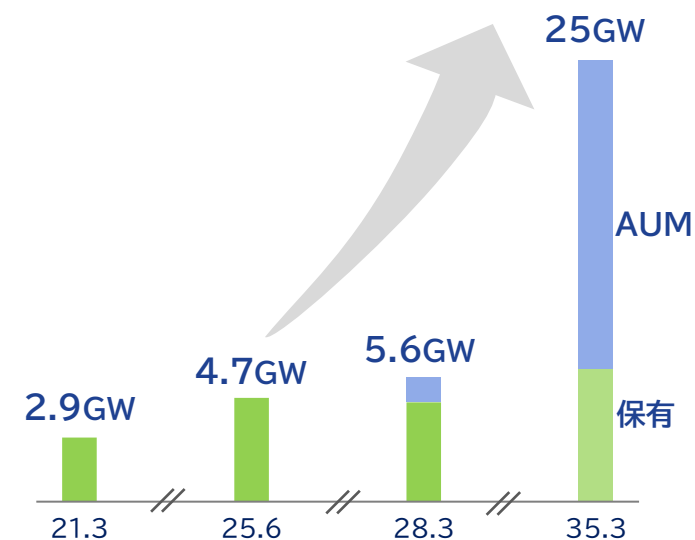


セグメント資産・ROA

(億円)



再エネ設備容量の見通し*



* 建設段階など稼働前の設備容量は含まない。
「保有」は、ORIXの持分比率等を考慮後

※ Elawan、Ormat、Greenkoの利益取込・連結は3か月遅れ(1-3月実績を当期Q1に反映)

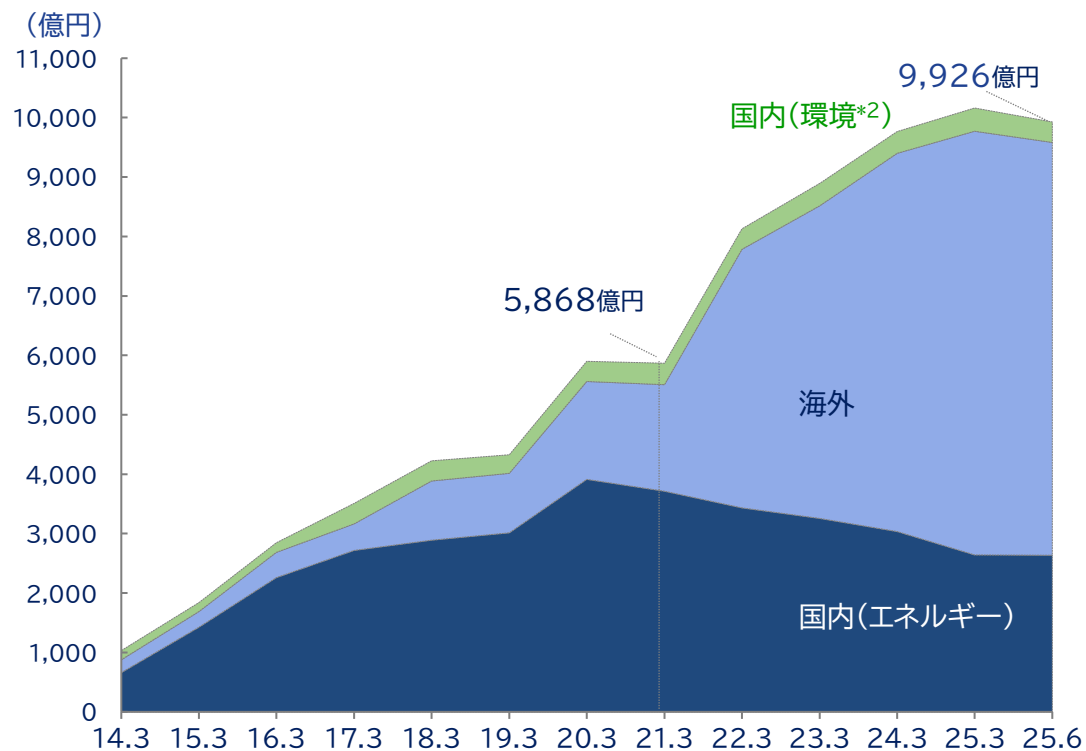
環境エネルギー事業

- ✓ 稼働中の設備容量は、全世界で4.7GW*1
- ✓ 21.3期以降、海外を中心に、太陽光・陸上風力・水力発電の設備容量を拡大

※ 環境エネルギー事業・サービスの概要は[こちら](#)

*1 建設段階など稼働前の設備容量は含まない。ORIXの持分比率等を考慮後

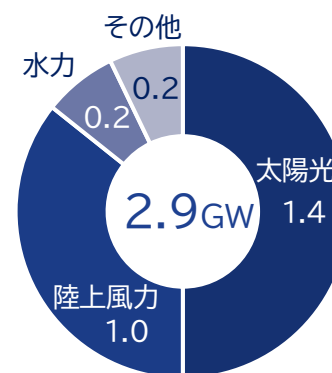
セグメント資産の推移



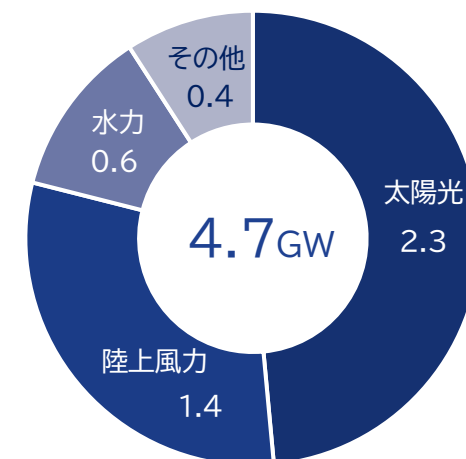
*2 環境: 廃棄物処理、資源リサイクルなど

再エネ設備容量*1 の推移(電源種類別)

21.3期



25.3期



保険

セグメント利益：241億円

前年同期比+21億円(+10%)

- ✓ 運用収益を伸ばし、前年同期比で増益。前Qに、債券の入れ替えによる売却損を計上したこともあり、前Q比では大幅増益
- ✓ 25.3期は、会社法基準でも黒字(126億円)に転換

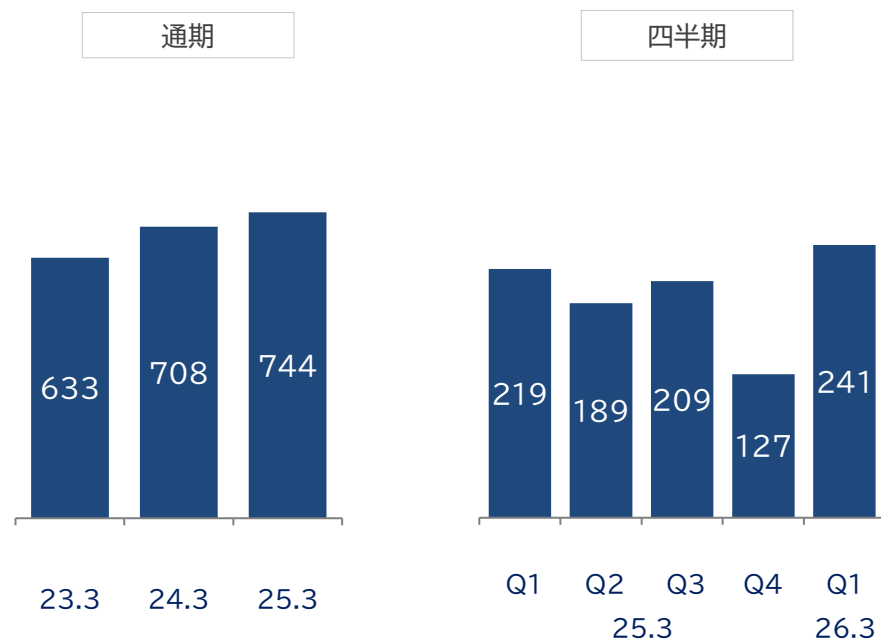
セグメント資産：30,477億円

前期末比+385億円(うち為替▲212億円)

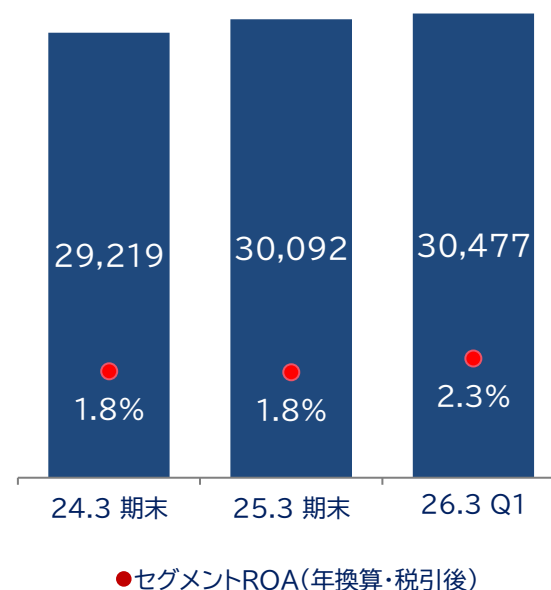
- ✓ 投資有価証券の一部入れ替えを進めながら、運用資産を伸ばし増加
- ✓ 24年11月に発売した一時払終身保険「Moonshot」の販売好調
- ✓ 25年6月には、リニューアル商品「収入保障保険Keep Up」を発売

(億円)

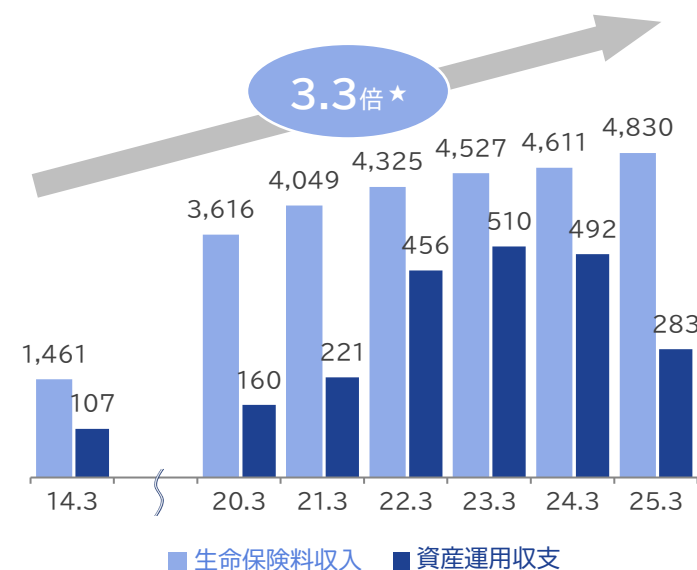
セグメント利益



セグメント資産・ROA



生命保険料収入および
資産運用収支*1の推移



★生命保険業界(全体)の同期間における保険料収入の増加率は1.2倍*2

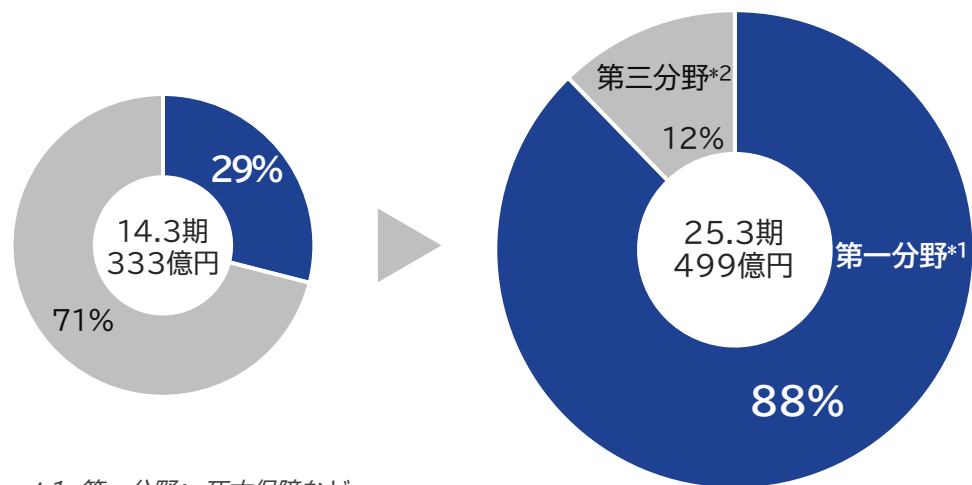
*1 資産運用収支は会社法基準にて作成 *2 会社法基準の各社決算に基づき、当社にて作成 (2025年3月末時点)

保険事業

- ✓ 契約単価の高い第一分野の商品を投入し、医療保険などの第三分野商品の販売が大半を占めた従前のビジネスモデルから脱却。法人/富裕層開拓を通じ新契約年換算保険料を伸展
- ✓ 資産運用手段の多様化も順調に進み、運用収益は増加

商品ポートフォリオ

新契約年換算保険料

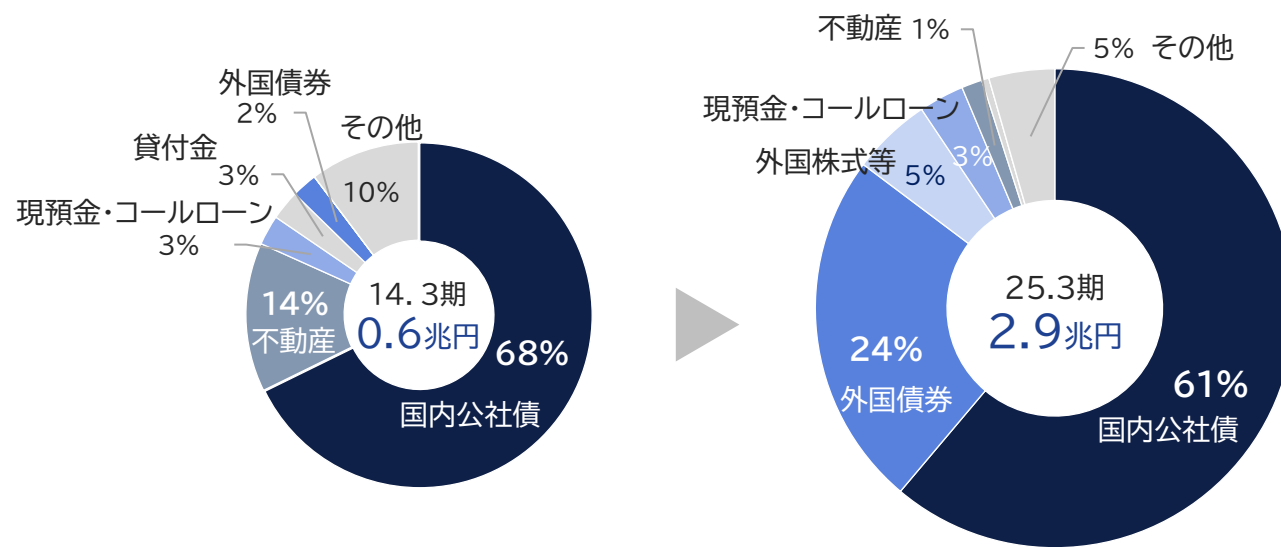


*1 第一分野: 死亡保障など

*2 第三分野: 医療保険、がん保険など

運用資産ポートフォリオ

運用資産残高*3



*3 会社法基準

銀行・クレジット

セグメント利益：99億円

前年同期比+35億円(+55%)

- ✓ 金利上昇で金融収益を拡大。金利変動リスク、預金調達リスクは限定的ながら、金利上昇局面では調達コスト増が一定先行
- ✓ 一方、当期Q1の増益は一過性要因によるもの

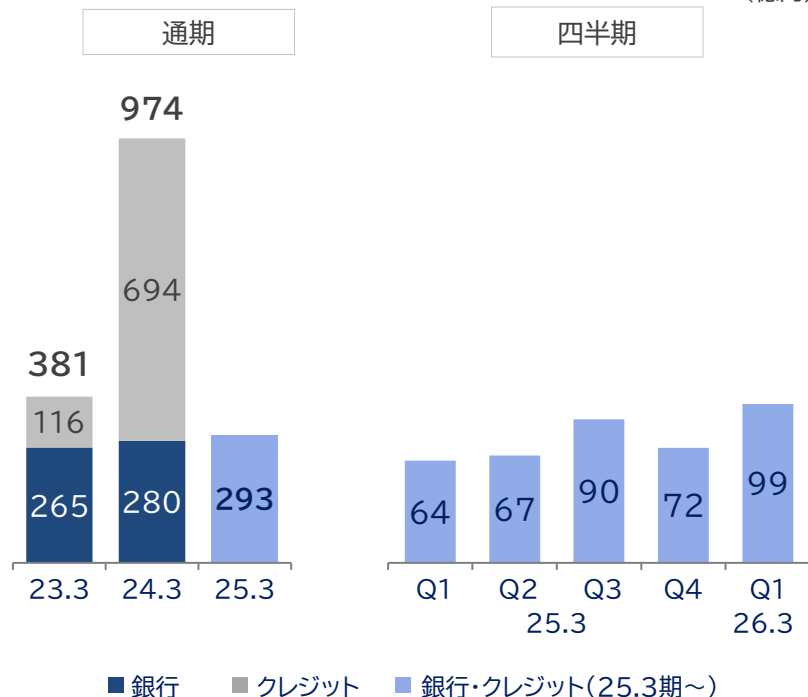
セグメント資産：32,165億円

前期末比+719億円(+2%)

- ✓ 投資用不動産ローン、マーチャントバンク事業の新規実行が増加。流動化による収益性向上を企図
- ✓ オリックス㈱へ300億円の配当を実施(2025年7月)

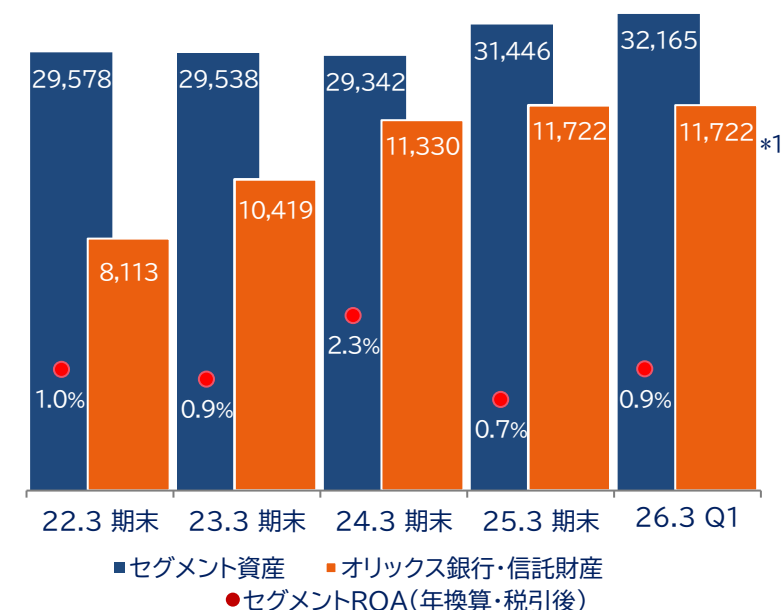
セグメント利益

(億円)



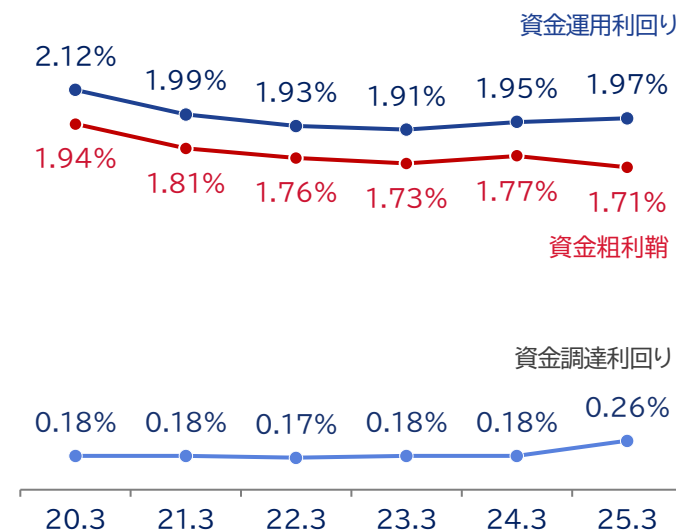
セグメント資産・ROAと
オリックス銀行・信託財産の推移

(億円)



*1 2025年3月末時点

オリックス銀行の資金利回り・粗利鞘 *2

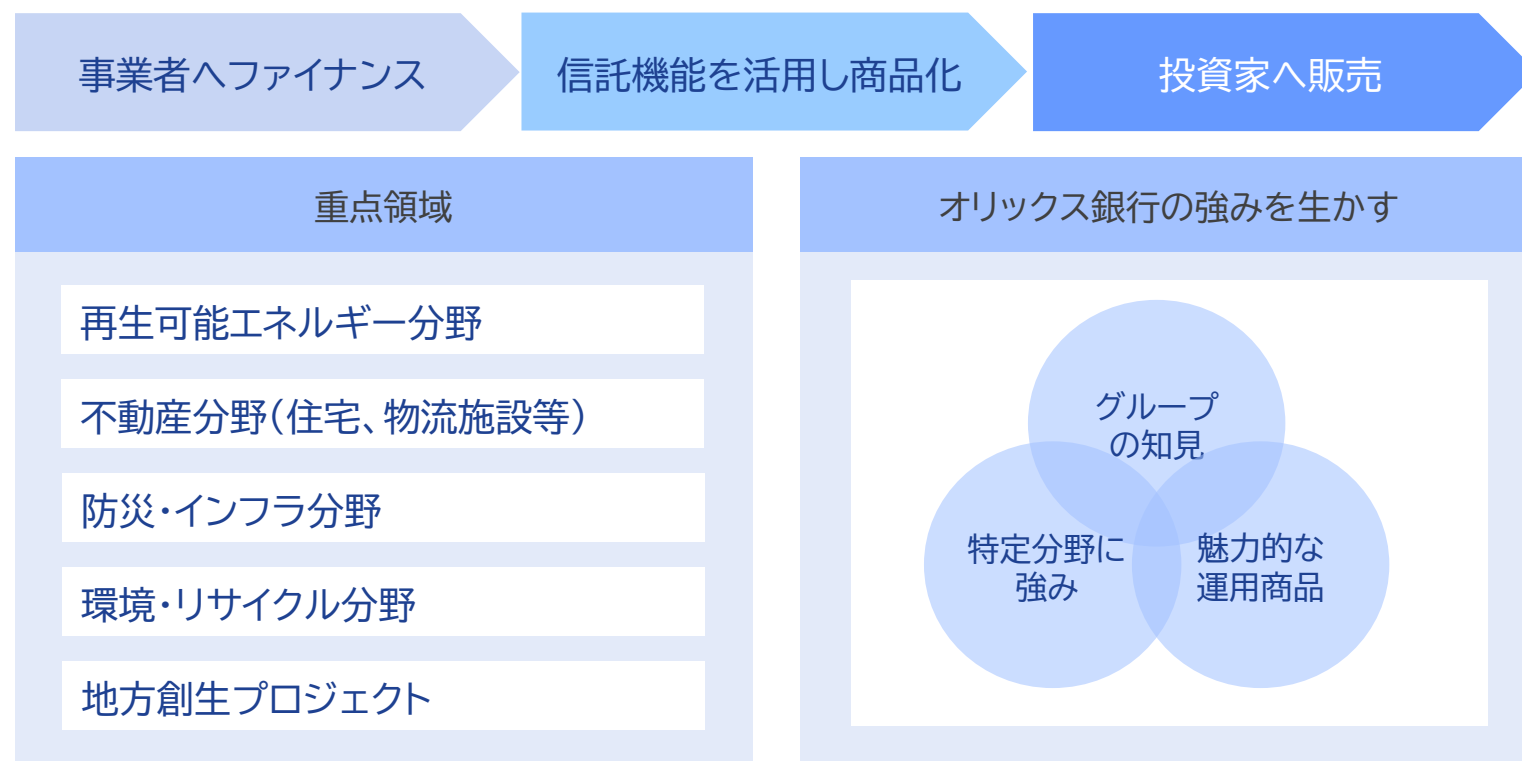


*2 オリックス銀行 決算説明資料より

銀行事業

- ✓ 主力の投資用不動産ローンに加え、持続可能な社会の基盤となる産業へのファイナンスを強化
- ✓ 信託機能の活用によるローン債権の流動化など、資産の質・量を適切にコントロールしつつ、持続的成長と収益性向上を目指す

■ オリックス銀行が強化するビジネスモデル



■ 実績

- ✓ 2025年3月期は重点領域において、通期で約2,000億円の融資を実行(承認済含む)
(2021年4月以降の累計実行額: 約6,500億円)
- ✓ 信託機能を活用してローン債権を流動化し、地域金融機関のESG投資ニーズ等に貢献
2025年3月期通期の販売額
 - ・ 投資用不動産ローン 約580億円
 - ・ 重点領域等 約650億円

【事例】

農作物の栽培を続けながら太陽光発電による電力を供給する、営農型太陽光発電所を対象としたノンリコース型のプロジェクトファイナンスを実行
(2025年6月)

輸送機器

セグメント利益：99億円

前年同期比▲19億円(▲16%)

✓ 航空機は、若干減益ながら、保有機体数の増加・リース料率の上昇により、リース収入は増加傾向

✓ Avolonは、Castlelakeの利益取り込み*1もあり、増益

✓ 船舶は、金融収益が減少した他、海運市況も影響して減益(三徳船舶の連結業績への反映は3か月ラグ)

*1 2025年1月にCastlelake Aviation Ltdの株式取得を完了

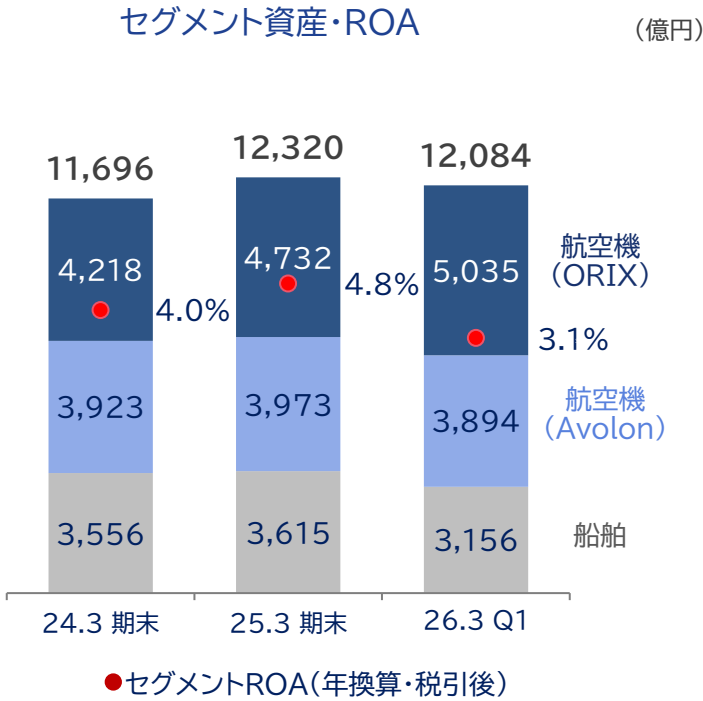
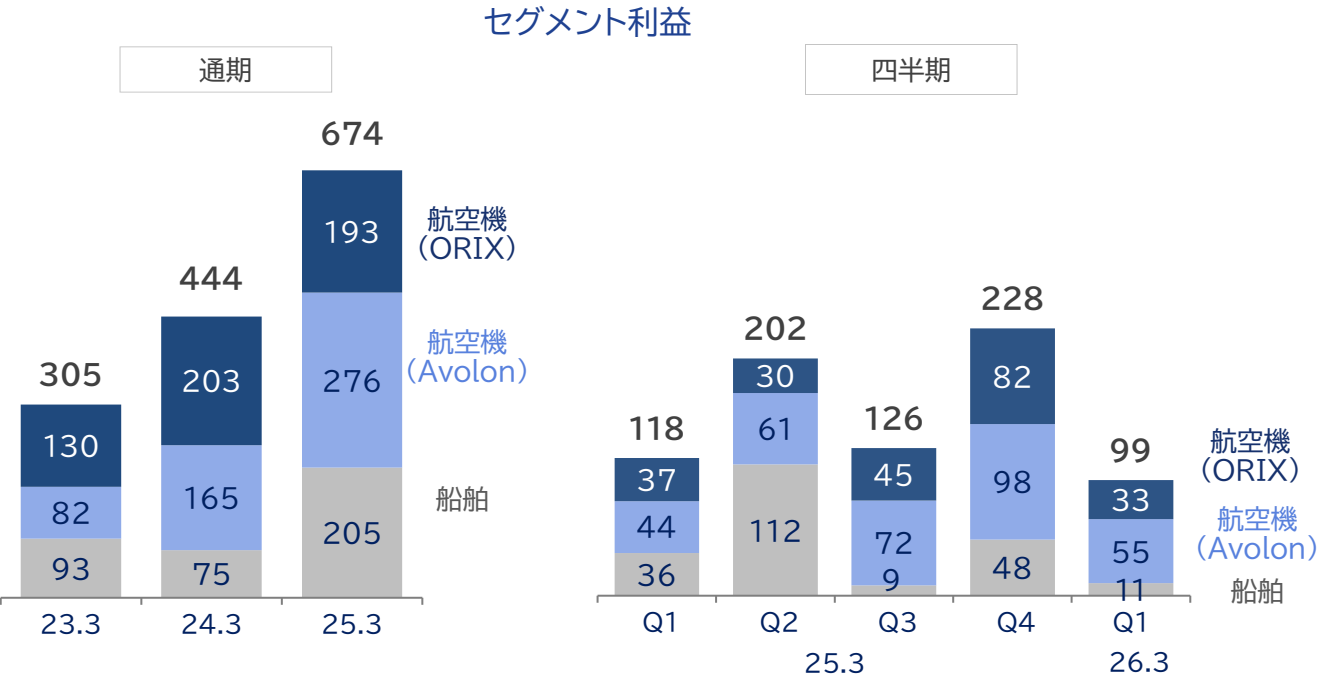
セグメント資産: 12,084億円

前期末比▲ 235億円(うち為替▲286億円)

✓ 航空機は、保有機体数が増加

✓ Avolonは、Moody'sとFitchが格上げ、S&Pがアウトルックをポジティブへ

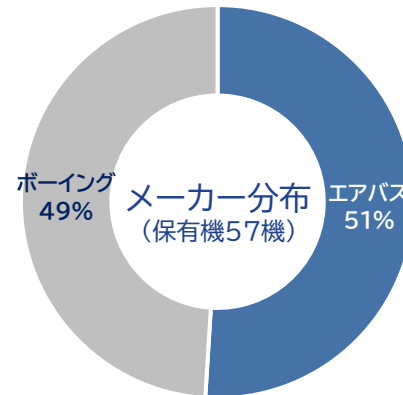
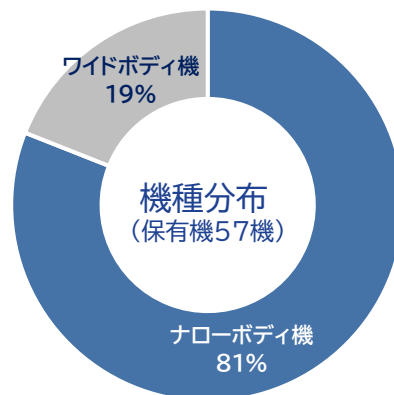
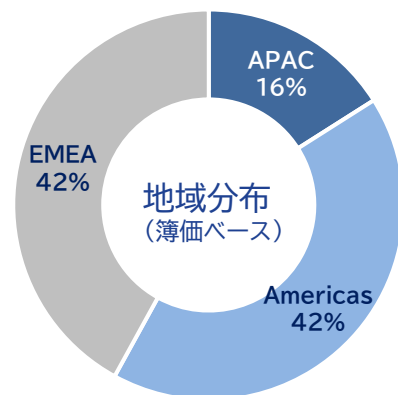
✓ 船舶は、前Q4に双日の船舶トレーディング事業(ソメック)へ出資し船舶仲介業へ本格参入



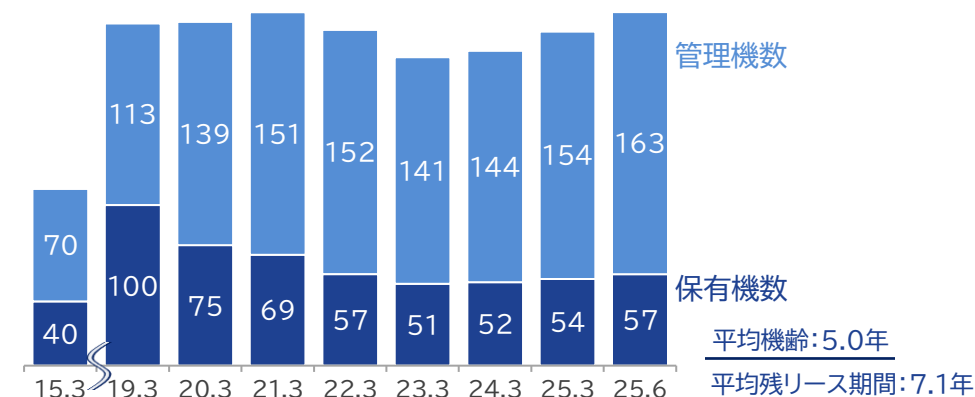
航空機リース事業

(2025年6月末時点)

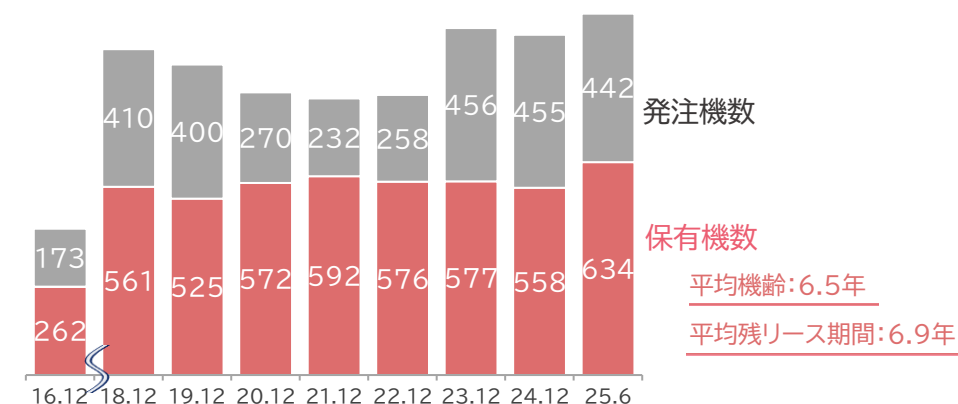
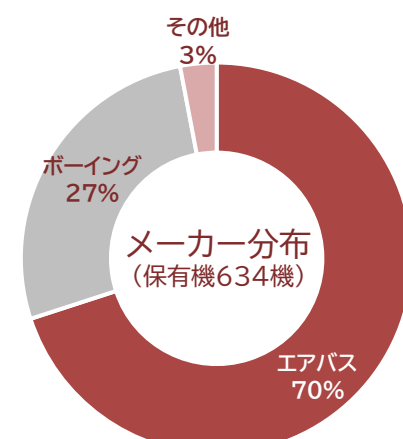
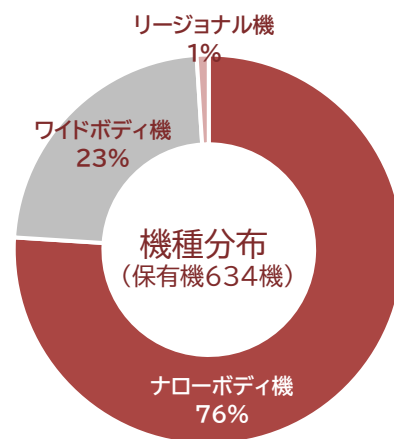
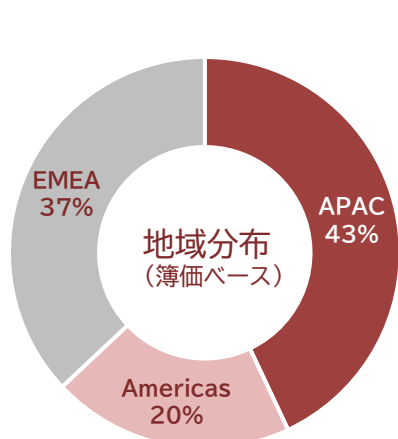
オリックス航空機リース事業 (1978年より展開)



保有・管理・発注機数の推移



Avolon (2018年に30%出資) 【S&P: BBB- / Moody's: Baa2 / Fitch: BBB】



ORIX USA

セグメント利益：6億円

前年同期比▲112億円(▲ 95%)

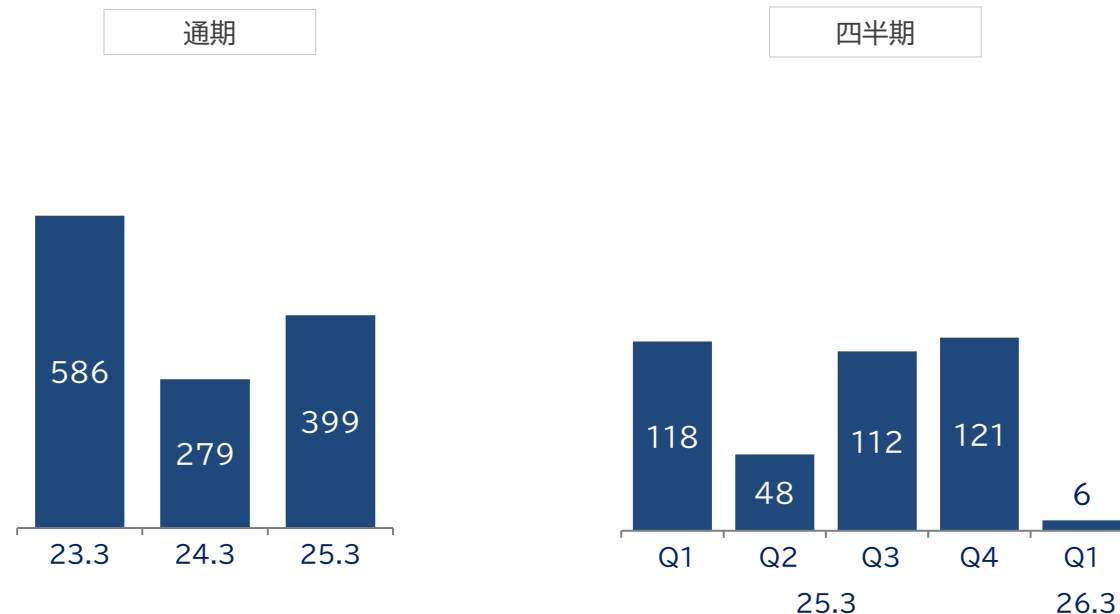
- ✓ 当初より、26.3期は下期偏重の計画
- ✓ クレジットは主に、前期に計上した引当金戻入の反動で減益
- ✓ 不動産は、前期にファンド持分を売却した反動により、減益
- ✓ PEは、投資先の減損もあり、減益

セグメント資産: 15,882億円

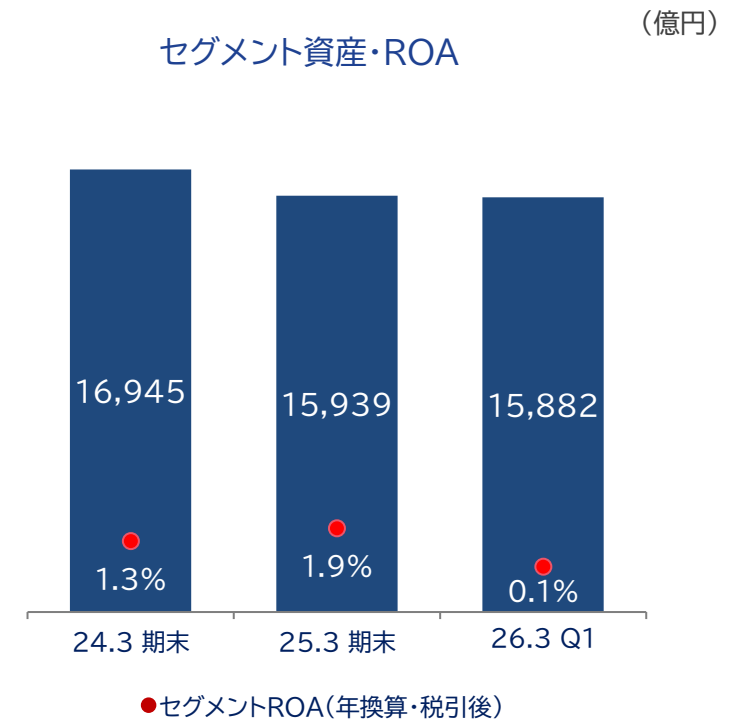
前期末比▲57億円(うち為替▲517億円)

- ✓ 既存投資先の価値向上を企図したボルトオン投資もあり、現地通貨ベースでは資産増加
- ✓ 市況を注視してセレクトティブに案件を検討しつつ、AUMの獲得に向けた活動も継続

セグメント利益



セグメント資産・ROA



ORIX USAの事業

- ✓ 米国ミドル・マーケットで資金調達のソリューションを提供、ビジネスラインいずれも、アセマネ拡大を目指す (合計AUM/AUA 772億ドル)
- ✓ 自己勘定投資のほか、外部投資家へ資産運用や資本市場ソリューションを提供するハイブリッド戦略を展開

※セグメント利益・セグメント資産は、管理会計上の本社経費等を含まない。

(USD、2025年6月末時点)

	クレジット		不動産		事業投資(PE)	
セグメント利益	36M	前年同期比 ▲37M	7M	前年同期比 ▲14M	▲14M	前年同期比 ▲4M
セグメント資産	5,599M	前期末比 +14M	3,707M	前期末比 +145M	1,131M	前期末比 +121M
事業内容	✓ 各種デットサービス ✓ レバレッジド・ローン、 ストラクチャード・ファイナンス、など		✓ 米政府系住宅ローンエージェンシーを引き 受け先とするローンのオリジネーション ✓ 低所得者用住宅税額控除(LIHTC*)の シンジケーション		✓ ファンド形式:2016年設立、主な投資を累 計7件(平均投資金額75~250Mil) および ボルトオン買収を複数 ✓ 自己勘定投資:2012年設立、累計50件の 投資実績(同10~20Mil)	
事業ライン	✓ NXT Capital ✓ Signal Peak Capital Management		✓ Lument ✓ Boston Financial Investment Mgmt		✓ ORIX Capital Partners(ファンド) ✓ ORIX Private Equity Solutions (自己勘定)	

* 低所得者用住宅の供給促進を目的とした、米国連邦政府の税額控除プログラム(景気の影響を受けにくいマーケット)

ORIX Europe

セグメント利益：99億円

前年同期比▲12億円(▲11%)

- ✓ パフォーマンスフィーの減少で減益ながら、AUM拡大によりマネジメントフィーは増加傾向

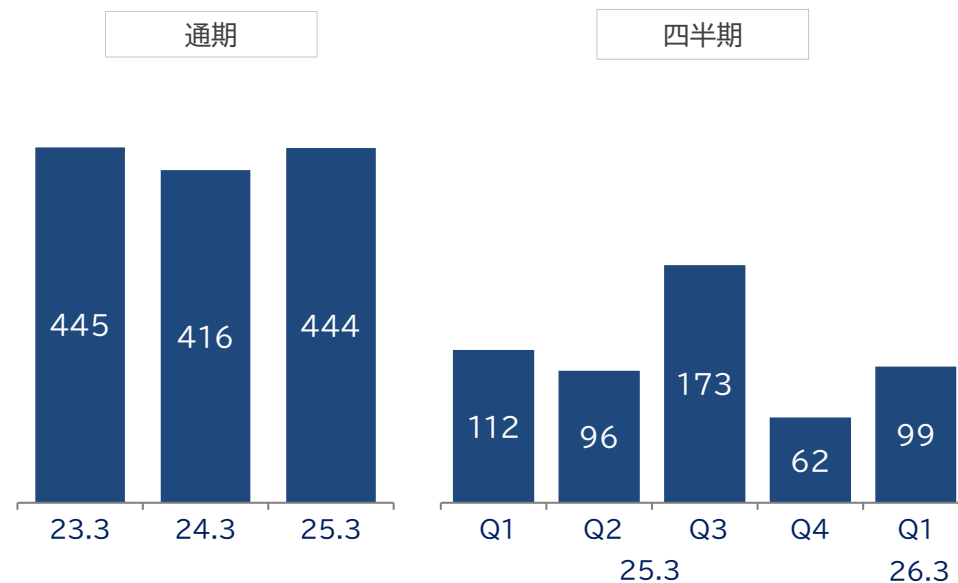
セグメント資産：7,161億円

前期末比+468億円(うち為替+320億円)

- ✓ 為替の影響もあり、資産増加
- ✓ AUMは4,017億ユーロと過去最高
- ✓ 純資金流入額は、4四半期連続プラス

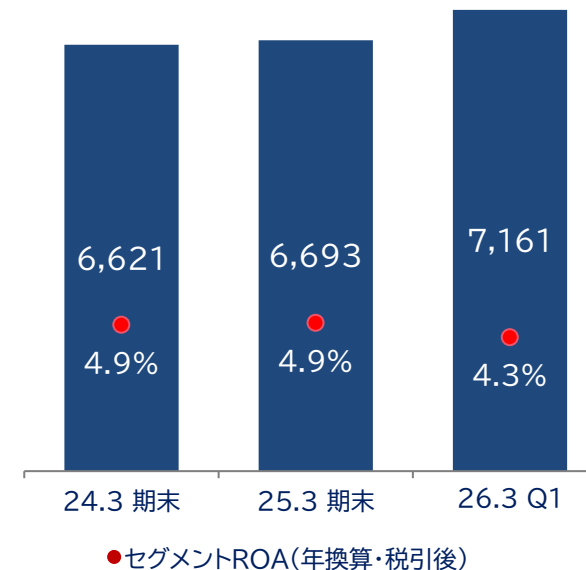
セグメント利益

(億円)

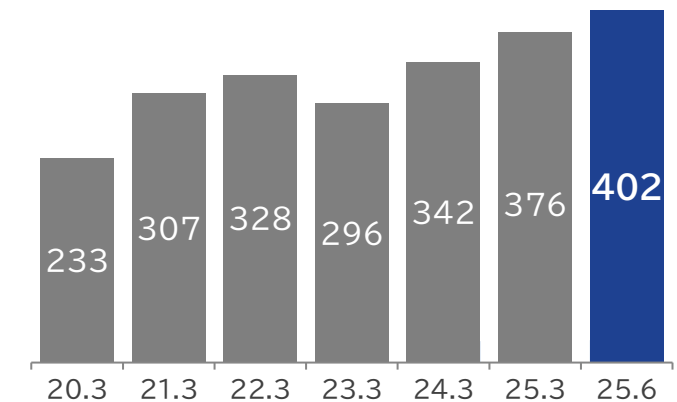


セグメント資産・ROA

(億円)



AUMの推移 (十億ユーロ)



ORIX Europeの事業

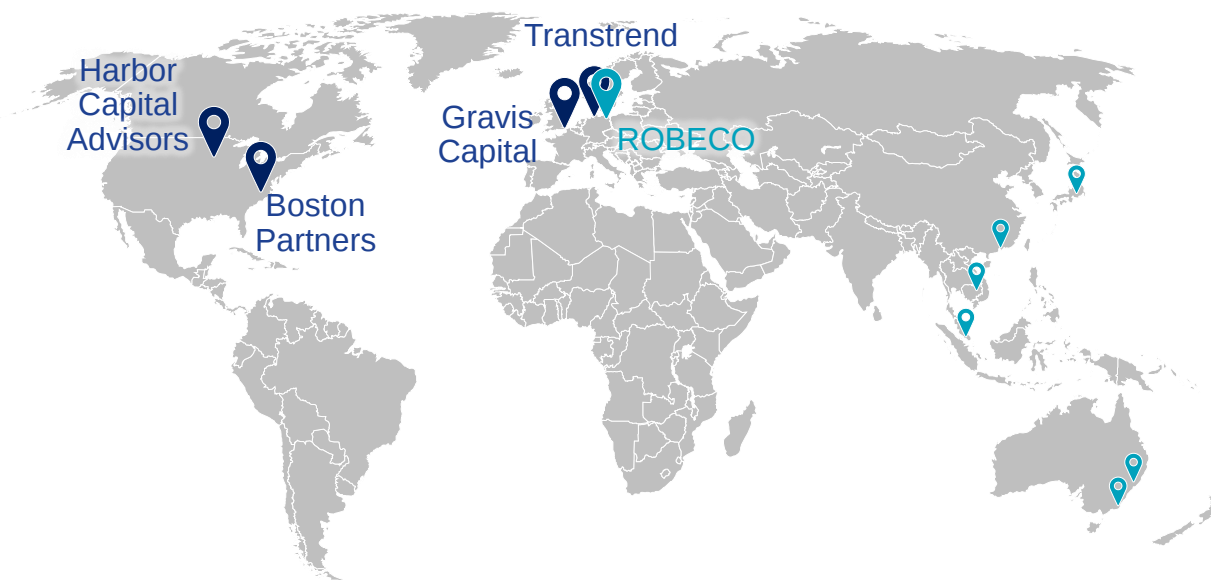
- ✓ 伝統的資産の株式・債券の他、コモディティ・再生可能エネルギー等ファンドのアセットマネジメント事業を推進
- ✓ グローバルネットワークを活用し、資産運用ビジネスを最大限成長させることに注力(例:ROBECOアジア戦略)

主要グループ各社

	本拠地	運用の特徴	設立 (取得)	AUM*
ROBECO	ロッテルダム	株式・債券運用、 サステナビリティ投資の 資産運用会社	1929年 (2013年)	EUR 214 Bln
Boston Partners	ボストン	バリュー株投資ブティック	1995年 (2013年)	USD 107 Bln
Harbor Capital Advisors	シカゴ	サブアドバイザーモデル による運用	1983年 (2013年)	USD 59 Bln
Transtrend	ロッテルダム	先物投資顧問会社(CTA)	1991年 (2013年)	USD 4.4 Bln
Gravis Capital Management	ロンドン	オルタナティブ 資産運用会社	2008年 (2021年)	GBP 2 Bln

* 各社ウェブサイトより(2025年7月末時点の開示情報)。

ORIX Europe on the Map



アジア・豪州

セグメント利益：90億円

前年同期比+1億円(+1%)

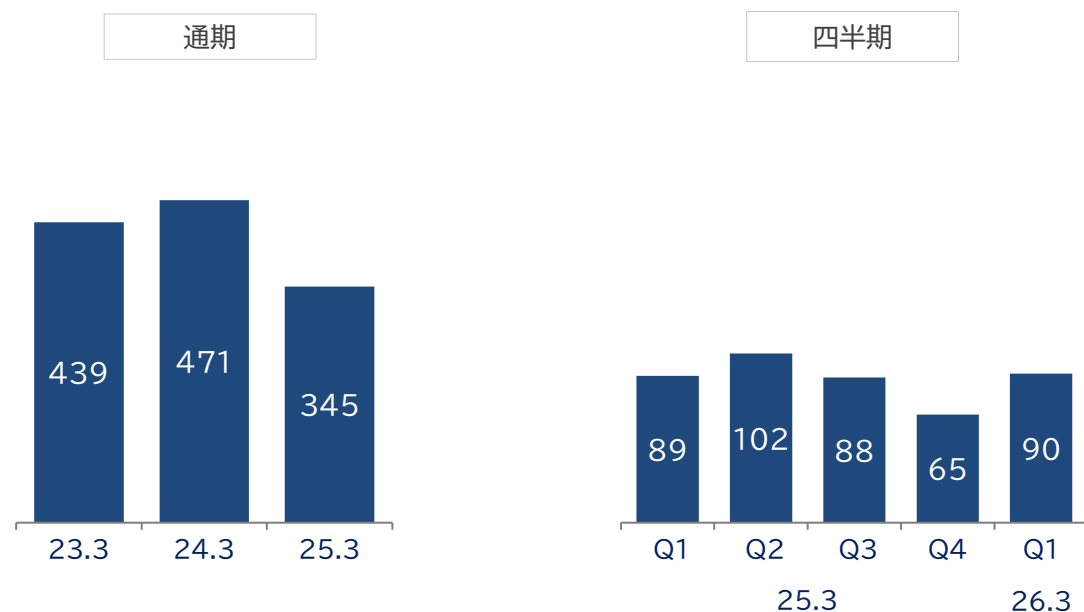
- ✓ 主にオーストラリア、シンガポールにおいて金融収益を伸ばし、増益
- ✓ 中華圏は、投資先からの取込益の減少により、前期比減益

セグメント資産：17,126億円

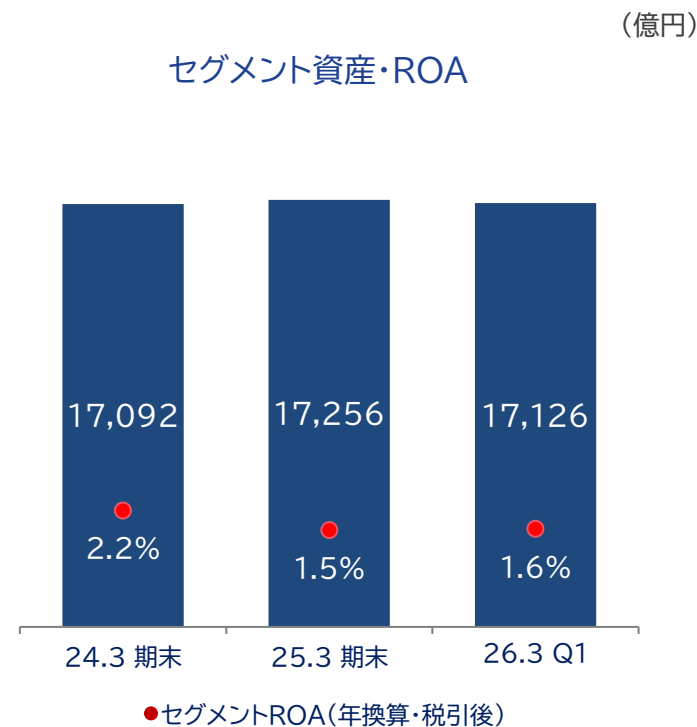
前期末比▲130億円(うち為替+42億円)

- ✓ 主にオーストラリア、シンガポールにおいてリースや貸付金を増加
- ✓ 一方、中華圏においては抑制的な投融資スタンスを継続。リース、投資ともエクスポージャーを縮小

セグメント利益



セグメント資産・ROA



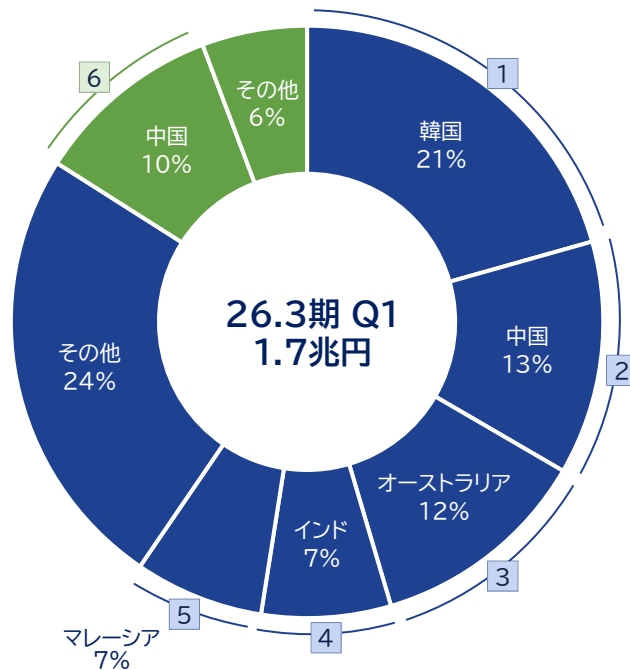
アジア・豪州の事業

- ✓ 産業用機械や自動車のリースを中心に、ローン、および中華圏等でPE投資などを展開

(億円)

セグメント資産 -事業別内訳-

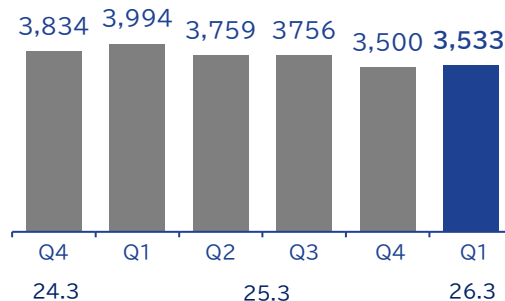
■ リース・ローン*1 ■ 投資*2



セグメント資産 -主要国・地域別推移-

1 韓国

▷ 自動車リース、リース、融資



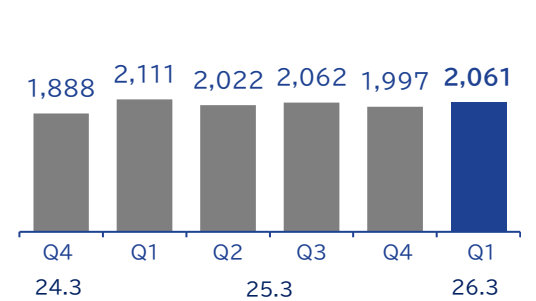
2 中国

▷ リース、レンタル



3 オーストラリア

▷ 自動車リース、トラックレンタル



4 インド

▷ 自動車リース、リース、ローン



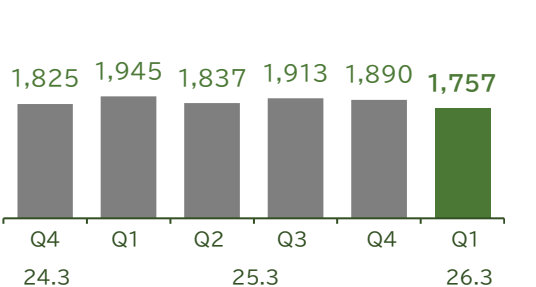
5 マレーシア

▷ リース、融資



6 中国

▷ エクイティ投資



*1 リース純投資、営業貸付金、オペレーティング・リースなど

*2 投資有価証券、関連会社投資など(関連会社投資のうち、リース等を主事業とするグループ会社等の持分は「リース、ローン」に含む)

➢ 中国へのエクスポージャーは3,942億円(当セグメント全体の23%)

➢ 台湾へのエクスポージャーは 815億円(同5%、上記「セグメント資産」円グラフの「リース・ローン」および「投資」の「その他」に含む)

➢ 香港へのエクスポージャーは 941億円(同5%、上記「セグメント資産」円グラフの「リース・ローン」の「その他」に含む)

補足資料

数字で見るオリックス

※別途記載がない限り、2025年3月期もしくは2025年3月末時点のデータに基づく

高い収益性

当期純利益

3,516億円

ROE

8.8%



高い成長性

当期純利益の年平均成長率
(13.3期～25.3期)

10%



国内トップクラスの再エネ事業者

再生可能エネルギー事業
設備容量(全世界)*2

4.7GW



株主還元の拡充

1株当たり通期配当額
(11.3期～25.3期)

年平均成長率**21%**



バランスの取れた収益*1

ベース利益の貢献 売却益の貢献

75%

25%



高い投資実績

国内プライベートエクイティ投資事業
IRR*3

25%



健全な財務基盤

信用格付

A格相当



グローバルなネットワーク

従業員数

約**34,000**名

地域

約**30**カ国・地域



アセットマネジメント事業の拡大

アセットマネジメント事業
運用資産残高*4

81兆円



*1 過去5年間(21.3期～25.3期)の平均値より算出

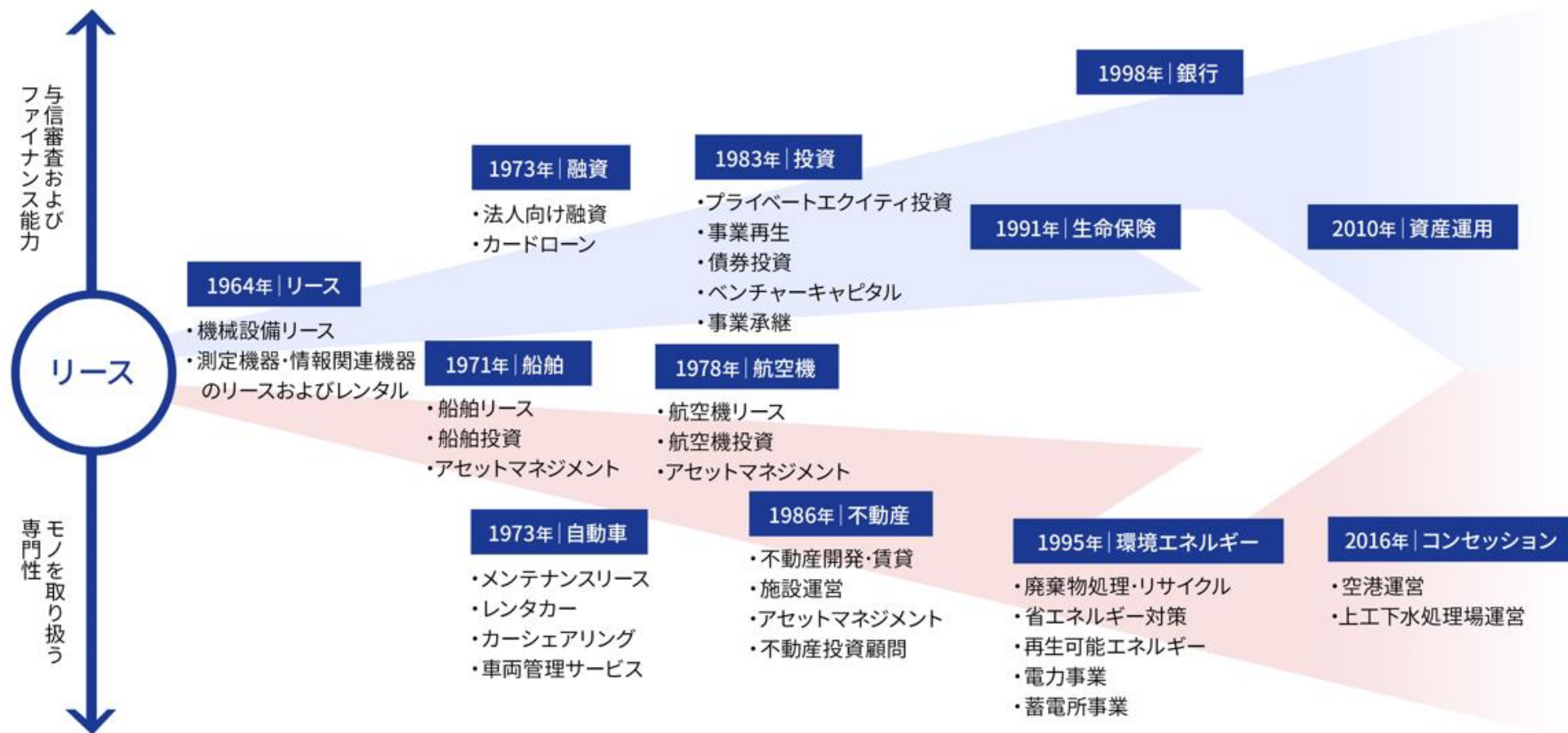
*2 オリックスの持分比率および個別プロジェクトの出資比率を考慮して算出(2025年6月末時点)

*3 2012年以降の投資案件(13件)のExitの平均値(2022年3月末に資産譲渡した小林化工株式会社を除く)

*4 ORIX Europe、ORIX USA、不動産の各セグメントが運用する資産残高合計(2025年6月末時点)

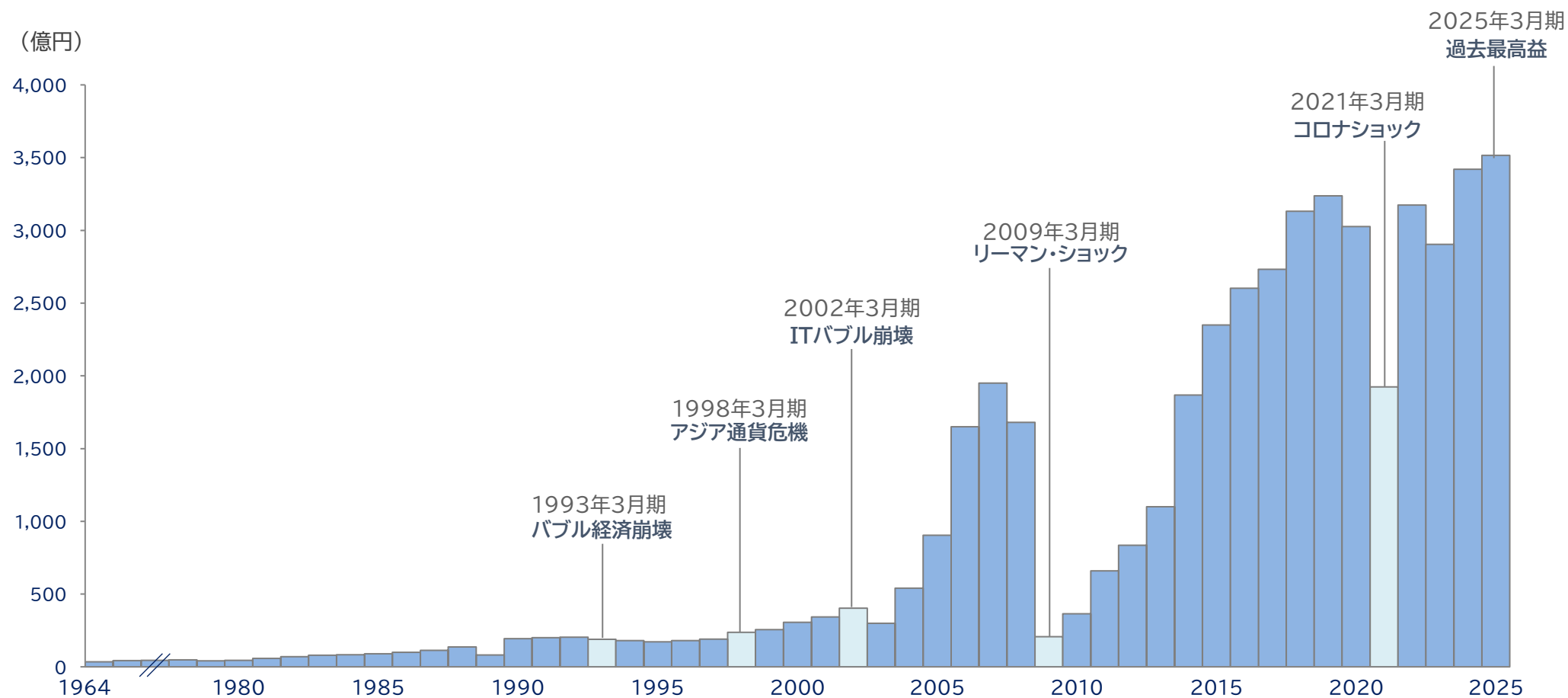
オリックスについて 事業の専門性とグループの総合力

✓ 「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へ、そのまた隣へと事業展開



オリックスについて 持続的な成長

- ✓ 60年間毎期黒字を計上(以下は「当社株主に帰属する当期純利益」の推移)

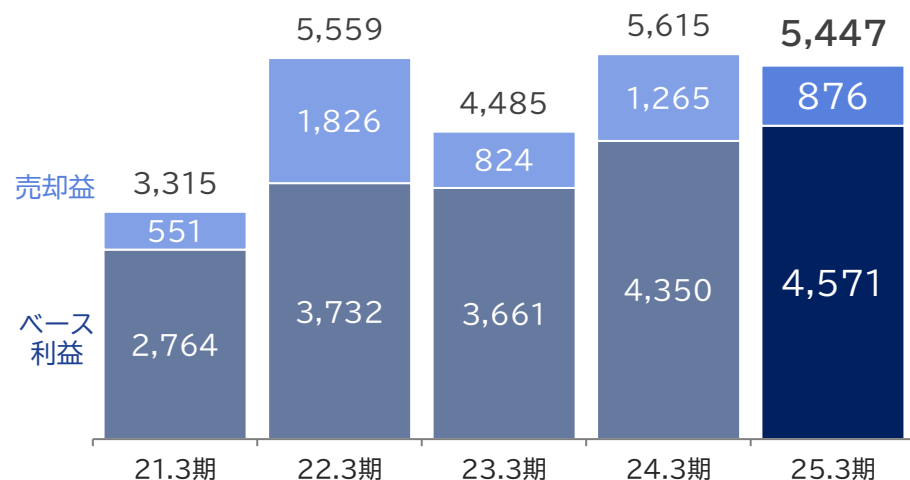


セグメント利益の内訳 | ベース利益と売却益

26.3期Q1 セグメント利益 1,649億円 前期比 +20% (+276億円)	うち ベース利益	1,222億円 前年同期比+184億円(+18%) PE投資先の利益貢献により増加
	うち 売却益	427億円 前年同期比+92億円(+27%) PE投資先の売却益剥落も、不動産、環境エネルギーでのキャピタルゲイン計上により増加

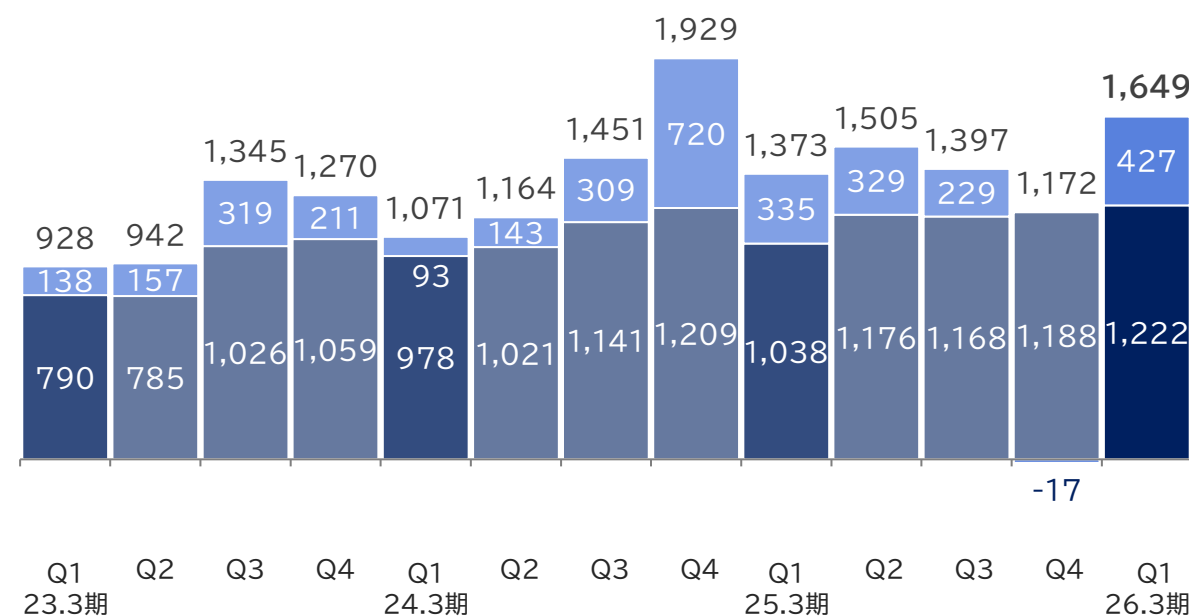
通期

売却益・5年平均
1,068億円



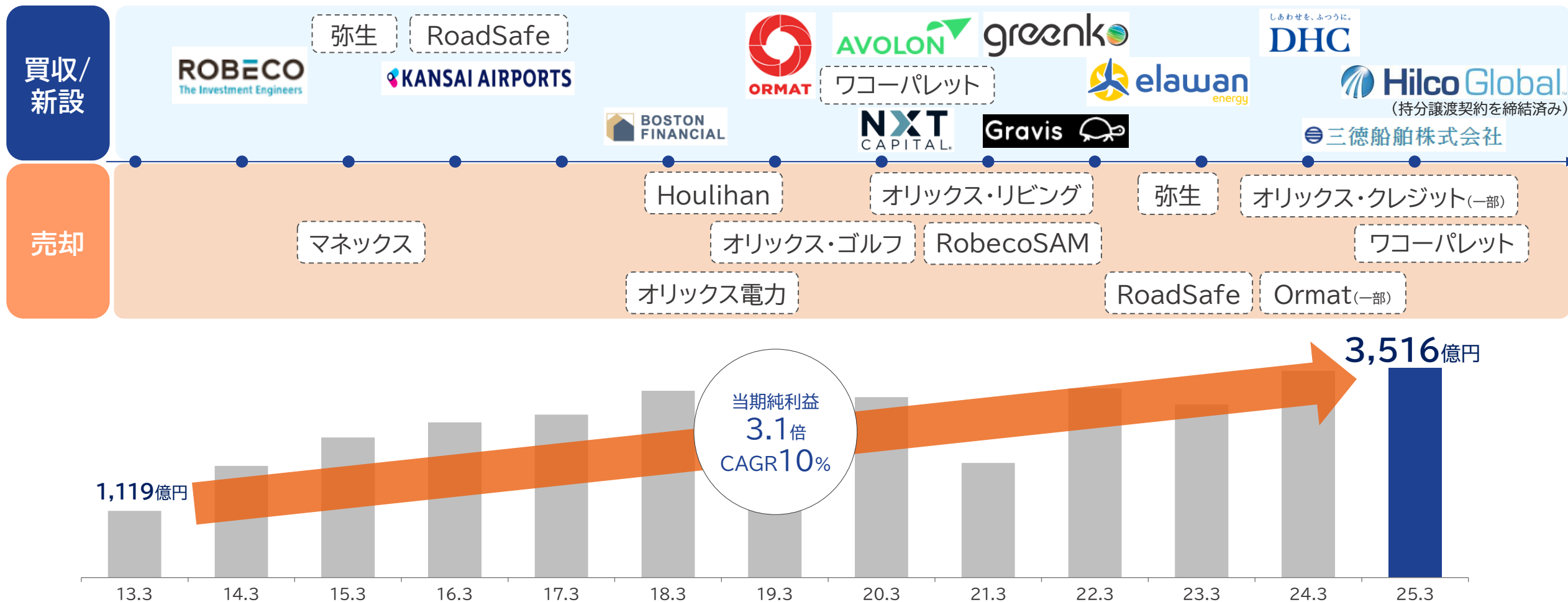
四半期

(億円)



キャピタルリサイクリング 利益成長

- ✓ キャピタルリサイクリングを加速したうえで、全体的な当期純利益は3.1倍/CAGR10%(25.3vs13.3)



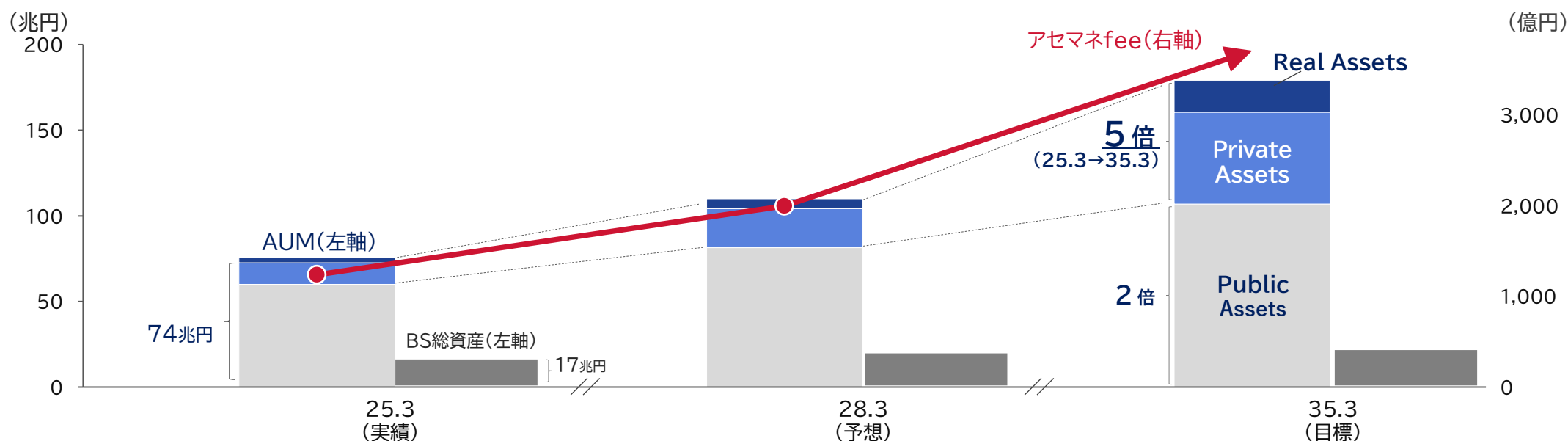
売却益と主な内訳

セグメント	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期	25.3期
不動産	536億円 オリックス・リビング etc.	169億円	214億円	295億円 物流施設	341億円 事業用資産、 物流施設	399億円 (432億円*) 複合施設
事業投資・ コンセッション	175億円 クラシアン etc.	1億円	▲202億円 小林化工 etc.	17億円 ネットジャパン etc.	196億円 プリマジェスト etc.	320億円 (452億円*) ささえあ、 ワコーパレット
ORIX USA	376億円 Houlihan Lokey etc.	177億円	459億円 RoadSafe etc.	332億円	56億円	277億円 LP出資償還益 etc.
その他	45億円 RobecoSAM ESGレーティング部門 etc.	204億円	1,355億円 弥生 etc.	181億円 Ormat(一部) etc.	672億円 オリックス・クレジット (一部) etc.	▲120億円 バイオマス混焼電所等 の減損 etc.
10セグメント合計	1,132億円	551億円	1,826億円	824億円	1,265億円	876億円

売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など(減損控除後)

*減損控除前

- ✓ オリジネーション能力とバリューアップモデルを活かし、アセマネfeeを成長
- ✓ Private AssetsとReal Assetsを中心に、第三者資金を積極的に取り入れ、AUMを拡大



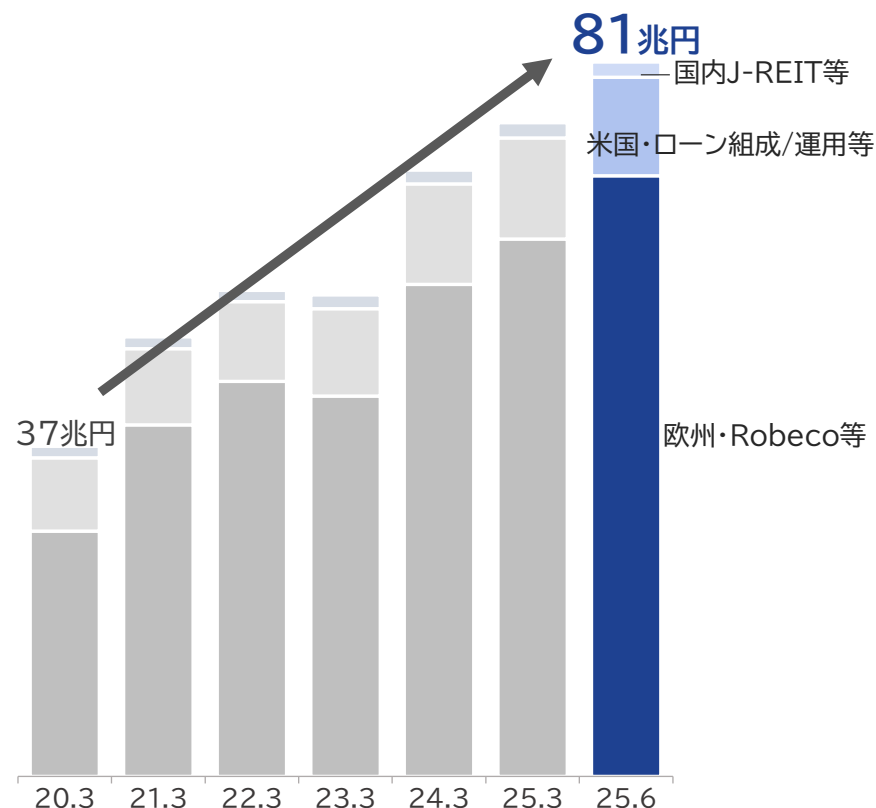
Real Assets	不動産REIT/私募ファンド、大京ユニットのマンション管理*、再エネファンド、太陽光発電所の運営管理*、自動車メンテナンス*、航空機の管理 等
Private Assets	国内PEファンド、銀行の信託財産、USAのPrivate Credit 等
Public Assets	主にRobecoグループが運用する株式・債券 等

*印のある事業は、AUMにはカウントせず。

オリックスグループ | アセットマネジメント

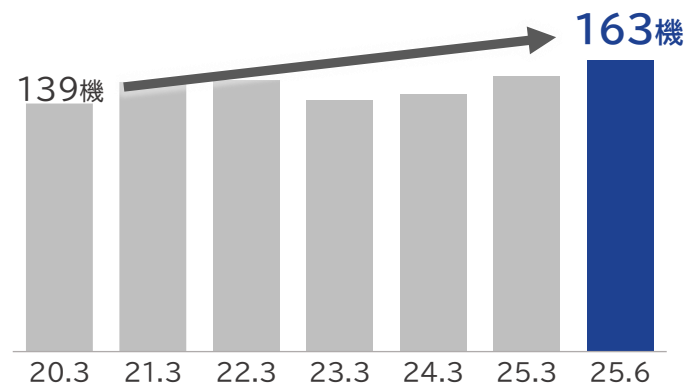
- ✓ 欧州・米国を中心に資産運用ビジネスを拡大、ベース利益を成長
- ✓ 株式、債券、オルタナティブ資産に加え、多様な資産の管理にも注力
(再生可能エネルギー、航空機、マンション管理、自動車は国内トップクラス)

株式・債券・オルタナティブ資産のAUM*

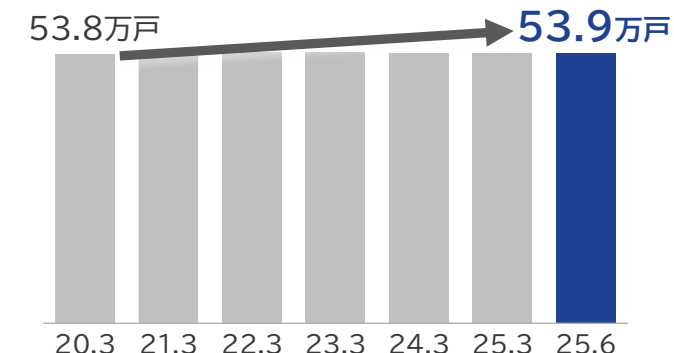


* 国内J-REIT等のみ25年3月末時点の金額。為替はそれぞれ期末時点

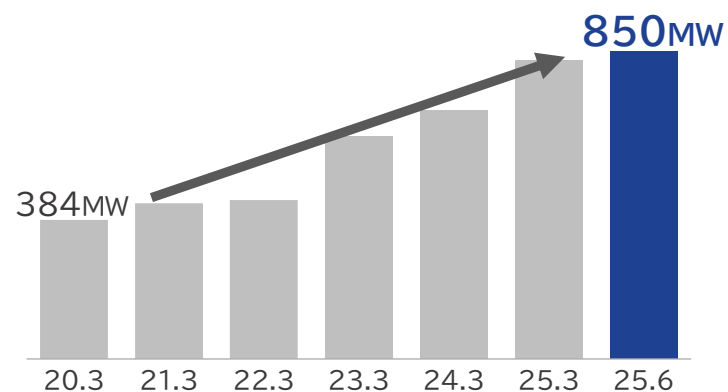
航空機・機体マネジメント



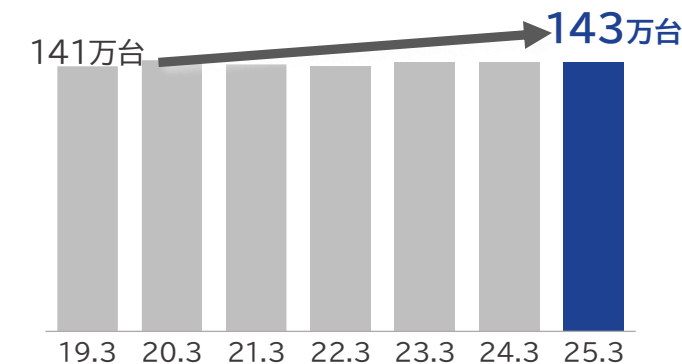
大京ユニット・マンション管理受託



メガソーラー発電所/蓄電所・運営管理



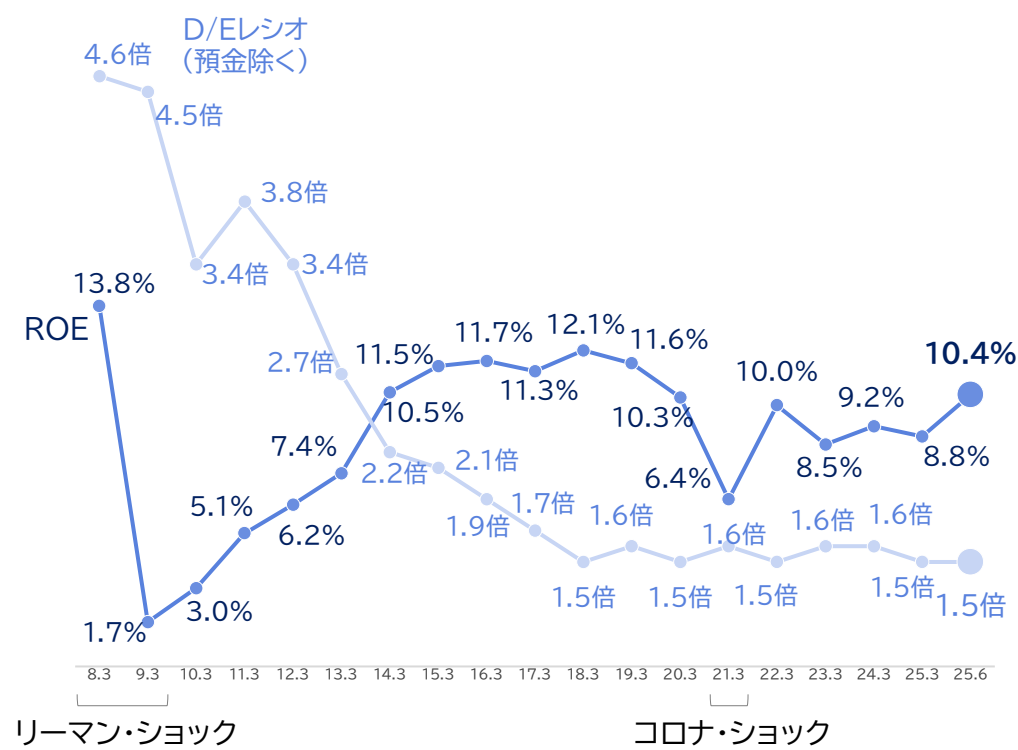
自動車・車両メンテナンス



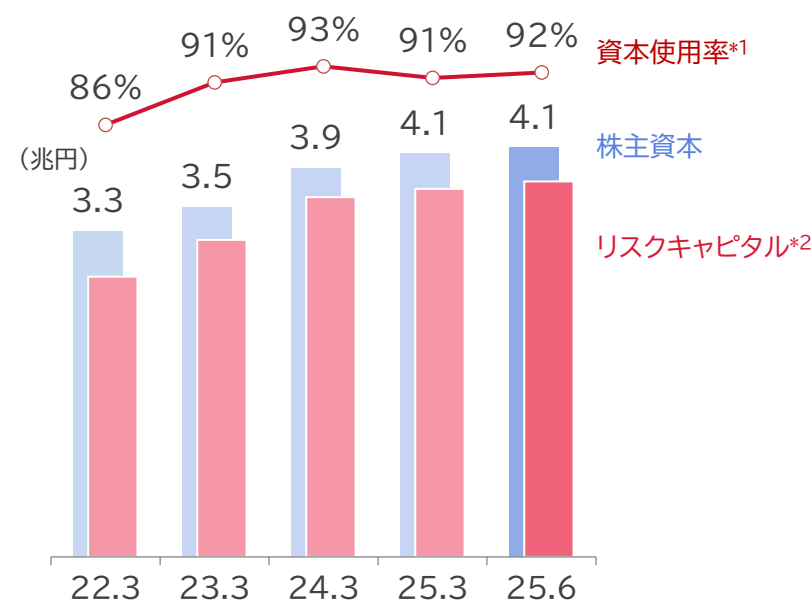
財務 | D/EとROE、資本使用率、格付

✓ キャピタルリサイクリングの推進により、適切な資本使用率を維持(Greenko株式の一部譲渡の影響はQ2に反映予定)

D/Eレシオ、ROE



株主資本・資本使用率*1



*1 株主資本に占めるリスクキャピタル*2の割合
*2 全ての資産において過去の最大下落率を元に算定、信用格付けはA格前提

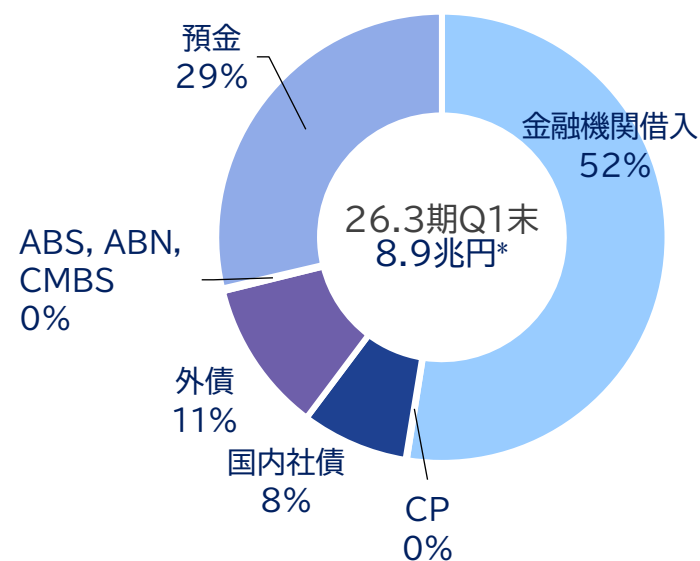
格付

	2025年6月末
S&P	BBB+(安定的)
Moody's	A3(安定的)
Fitch	A-(安定的)
R&I	AA(安定的)
JCR	AA(安定的)

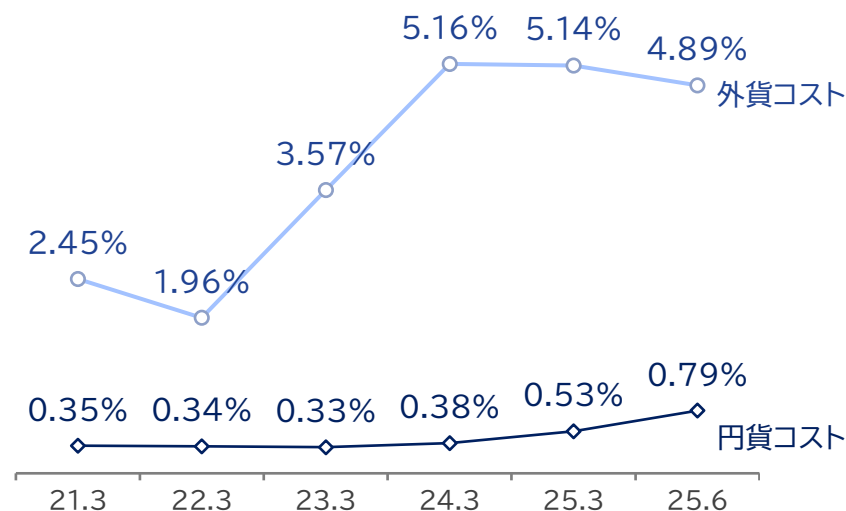
財務 | 資金調達構造と金利・為替感応度

- ✓ 多様化された資金調達構造
- ✓ 高い長期借入比率を維持しつつ、調達コストをコントロール

資金調達構造



調達コストの推移



ALM管理上の金利・為替感応度 (2025/3/31時点)

金利

- 円金利 : 若干ポジティブ
- 米ドル金利 : 若干ポジティブ
- ユーロ金利 : 若干ポジティブ

- 各通貨において、今後1年間にわたり1%の上昇が続くと想定した場合の税引前利益に対する感応度
- 25.3期末時点における資産・負債残高を前提としており、将来的な事業機会・リスクは考慮していない

為替

為替感応度: +10億円の効果

1年間にわたり1円の円安が続く場合の税引前利益に対する感応度

* 外貨調達の占める割合は31.0%、長期借入比率は90%

35.3期のありたい姿

「事業価値創造」と「顧客課題解決」を通じて、社会にインパクトをもたらす。

- 事業価値創造モデルと顧客課題解決モデルの両輪で、持続的な成長サイクルを実現
- 第三者の資金も取り入れ、ハイブリッド型のアセットマネジメント・ビジネスへの進化で、成長をドライブ

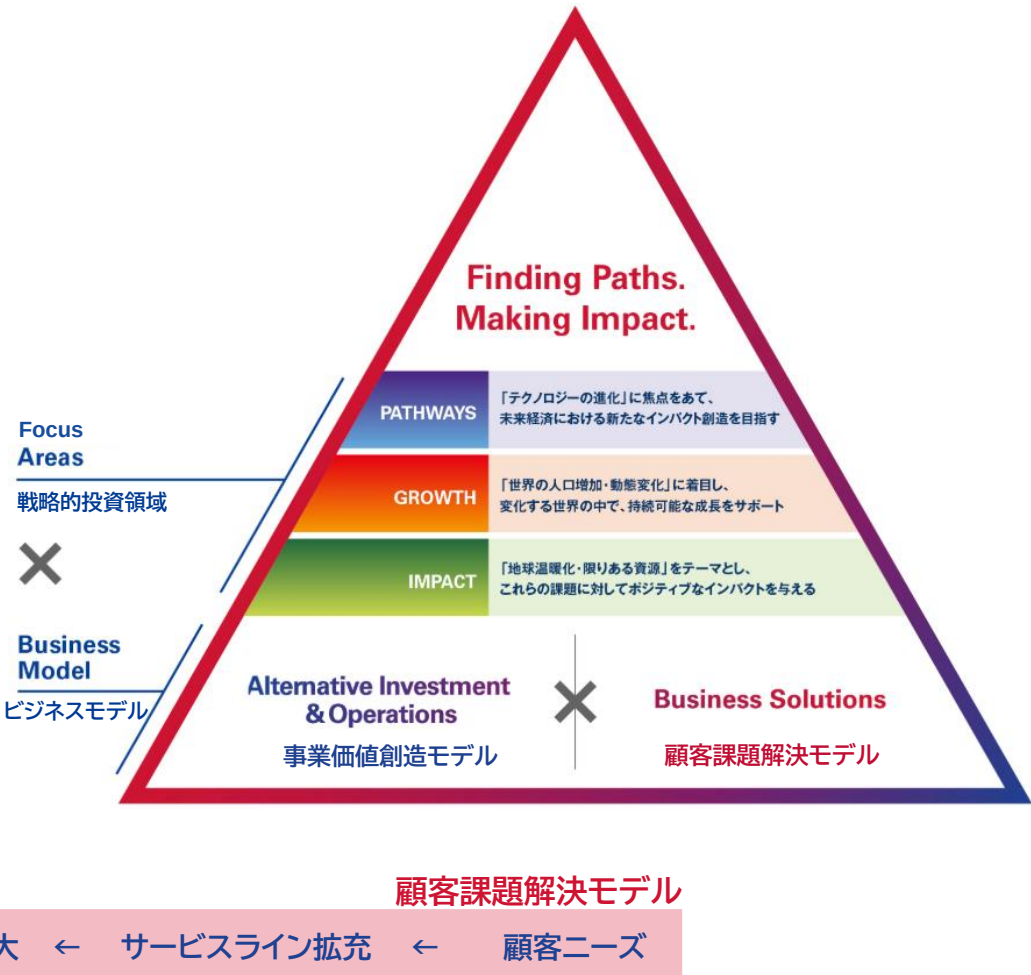
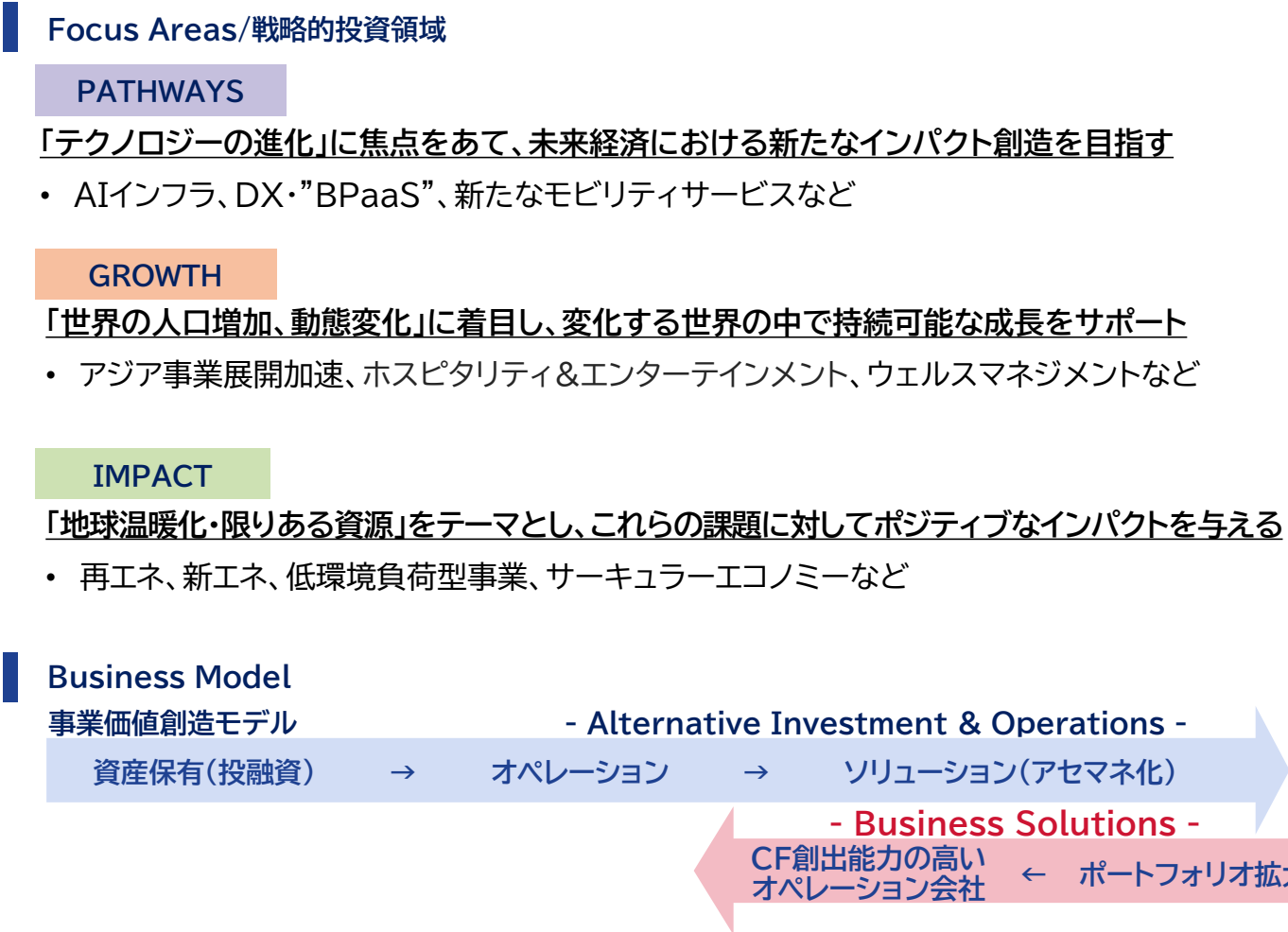


35.3期の経営指標

ROE15%、純利益1兆円

- 資本効率の向上と持続的な利益成長で、企業価値の最大化を図る
- 28.3期・ROE11%達成が、35.3期・経営指標に向けたマイルストーン

✓ 3つの戦略的投資領域で、強みとする2つのビジネスモデルを両輪に、成長サイクルを実現



※ORIX Group Purpose & Cultureは[こちら](#)

- ✓ 重点施策は、「ポートフォリオマネジメントの徹底」、「リスクマネジメントの高度化」、「新規事業の創造」
- ✓ ポートフォリオの最適化を進め、最重要であるROE目標の達成を目指す

ポートフォリオマネジメントの徹底

直近10年

- ✓ キャピタルリサイクリングを推進
(含み益の実現がメイン)

リスクマネジメントの高度化

- ✓ ERM部門を設立
(リスク情報をダッシュボード化)
- ✓ ALM運用を強化

新規事業の創造

- ✓ 再生可能エネルギー(海外展開)
- ✓ 空港コンセッション

次の10年

- ✓ ROE視点でポートフォリオ最適化
- ✓ リサイクリングの判断は以下を重視
 - ・ 成長性
 - ・ 資本効率性
 - ・ 信用格付への影響
- ✓ キャピタルアロケーションの推進
(金融→事業、投資)

- ✓ 経営情報基盤の強化(必要なデータを機能的/即時的に抽出)
- ✓ ポートフォリオマネジメントや新規事業創造への活用

- ✓ MICE-IR(2030年秋開業予定)
- ✓ 3つの戦略的投資領域を中心に、2つのビジネスモデルを活かす

- ✓ 金融: 経済成長地域でアセットを積み上げ、同時にアセマネ(オフバラ)化で非金融収益を拡大
- ✓ 事業: 広義「アセマネ」の機能拡充やサービス深化を通し、ROEを更に引き上げ
- ✓ 投資: キャピタルリサイクリングの加速と第三者資金の取り入れで、ROEを改善

ROE
(25.3→28.3)

金融

8.2% → **2桁**

- オルタナ投融資の積上げ/アセマネ化
 - ✓ NRL等ローン、保険の運用
- アジアは選択と集中
- 非金融収益の拡大
 - ✓ 法人向け保険商品の強化(シナジー)

事業

13.5% → **15%**

- アセマネの横展開・拡大
 - ✓ ROBECOグループ
 - ✓ 不動産、再エネ、輸送機器
- インバウンド向けサービス深化
 - ✓ 空港、ホテル、レンタカー

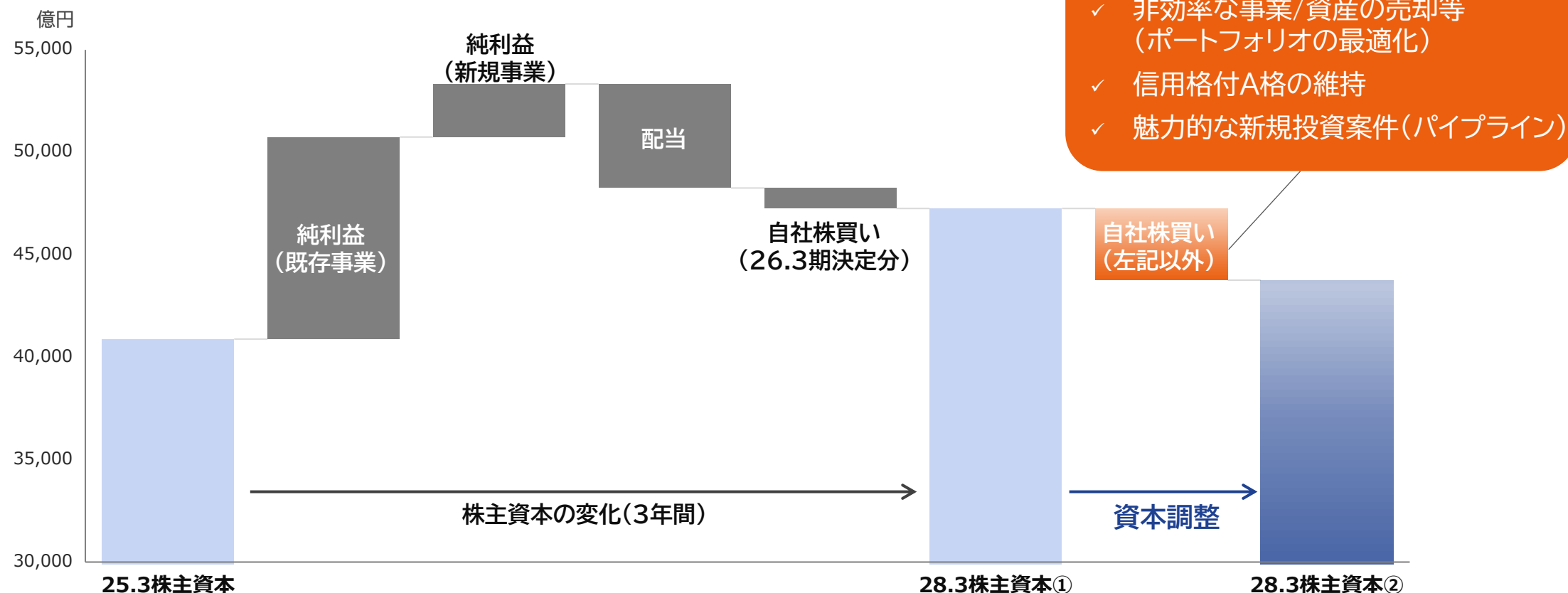
投資

7.4% → 複数年平均で **11%**

- キャピタルリサイクリングの加速
 - ✓ リカーリングな売却益の拡大
- PE等ファンドの組成/活用
- マイクロ事業承継(法人営業)
 - ✓ 25.3期は3件をExit

- ROE ≥ 11%の達成に寄与する新規投資案件の実行
 - ✓ ソメック(船舶仲介会社)の株式取得、三徳船舶の100%株式を取得
- ポートフォリオの最適化
 - ✓ Greenkoを一部売却、オリックス債権回収を売却、ジークライトを売却

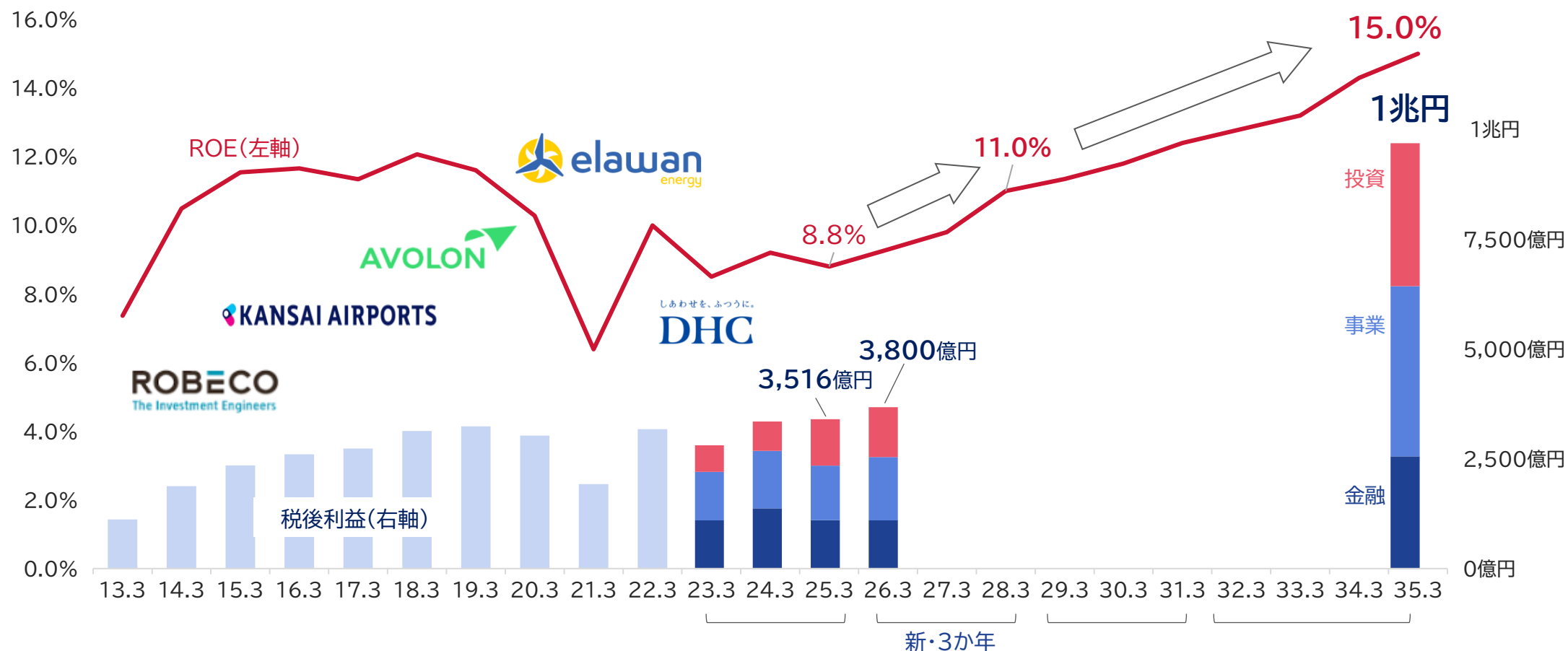
- ✓ 28.3期までの3年間は、A格維持を前提に機動的な自社株買いで資本調整を行い、EPS成長を加速
- ✓ 資本調整額は、非効率な事業/資産の売却等で生む余力も活かす



- ✓ 長期ビジョンは「ROE15%、純利益1兆円」、「事業価値創造」と「顧客課題解決」を通じて、社会にインパクトをもたらす。」
- ✓ 28.3期目標は、「ROE≧11%」。利益成長、ポートフォリオ最適化、自社株買い等還元、で達成を目指す

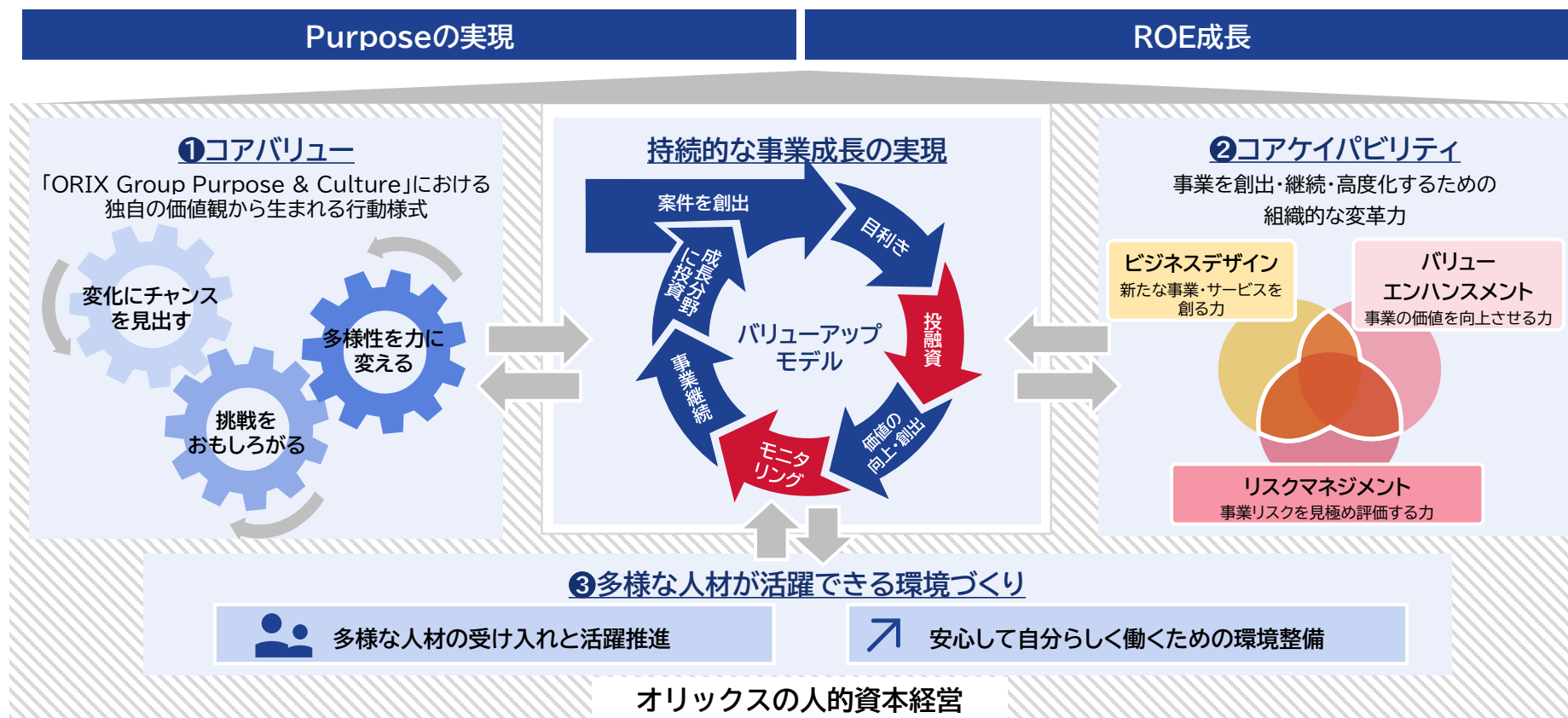
	35.3期 長期ビジョン	28.3期 目標	25.3期 実績
ありたい姿	「事業価値創造」と「顧客課題解決」を通じて、社会にインパクトをもたらす。		
ターゲット (経営指標)	ROE 15.0%	ROE 11.0%	ROE 8.8%
	純利益 1兆円		純利益 3,516億円
財務健全性	A格に相応しい財務基盤を維持		
① 配当性向 ② 自社株買い	企業価値成長 に相応しい株主還元	① 39% or 前期実績の高い方 ② ROE11%達成を重視、機動的に設定	① 39% (120.01円/株・通期) ② 500億円
AUM	アセマネfeeが成長ドライバー	100兆円(着実な拡大フェーズ)	74兆円

- ✓ 35.3期の経営指標は、「ROE15%、純利益1兆円」
- ✓ 「事業」メインにベース利益の持続的成長を重視、「投資」等の個別案件でキャピタルゲインの最大化も狙う



- ✓ 競争力の源泉である人的資本の構成要素を、コアバリュー、コアケイパビリティ、人材活躍の場と定義
- ✓ これらを三位一体で強化することで、人的資本の価値最大化と事業の持続的成長が可能に

※ORIX Group Purpose & Cultureは[こちら](#)



- ✓ 取締役会の社外取締役比率・過半を達成。GHG排出量削減をはじめ重要目標の達成に向け取り組み推進中
- ✓ 統合報告書2024では人的資本経営に関する開示を拡充

※ 統合報告書2024は[こちら](#)

ESG評価機関による評価 (2025年7月15日時点)

ESG評価機関	評価
MSCI	AA 「総合金融業界60社のリーダー」
FTSE	3.7 FTSE Blossom Index構成銘柄(継続)*1
Dow Jones Best-in-Class Indices*2	38 業界平均スコア:27
CDP	A-

*1 GPIFが採用する6つのESG指数(国内株式)の全ての構成銘柄に選定済

*2 CSAスコア (旧Dow Jones Sustainability Indices (DJSI))

ESG関連の重要目標(2021年11月公表)

- 2023年6月の株主総会までに、取締役会の社外取締役比率を過半数とする。
- 2030年3月期までに、取締役会の女性取締役の比率を30%以上とする。
- 2030年3月期までに、オリックスグループの女性管理職比率を30%以上とする。
- 2030年3月期までに、オリックスグループのGHG(CO₂)排出量を、2020年度比実質的に50%削減する。
- 2050年3月期までに、オリックスグループのGHG(CO₂)排出量を実質的にゼロとする。
- 2030年3月期までに、GHG(CO₂)排出産業*3 に対する投融資残高を、2020年度比50%削減する。
- 2040年3月期までに、GHG(CO₂)排出産業*3 に対する投融資残高をゼロとする。

*3 一部の海外現地法人における化石燃料採掘業やパーム油プランテーション、林業を指す

本資料に関する注意事項

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみに全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会(SEC)に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因(Risk Factors)」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

- 投資家情報
URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>
- IR資料室
URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library>

オリックス株式会社 IR・サステナビリティ推進部
TEL:03-3435-3121